

資料 4

地区別 地域特性分析

令和7年3月

宜野湾市 建設部 都市計画課

地区別 地域特性分析《北地区》（喜友名区、新城、普天間1～3区、野嵩1～3区）

基礎データ

人口

19,061人

出典：住民基本台帳
（2020年4月末時点）

高齢人口

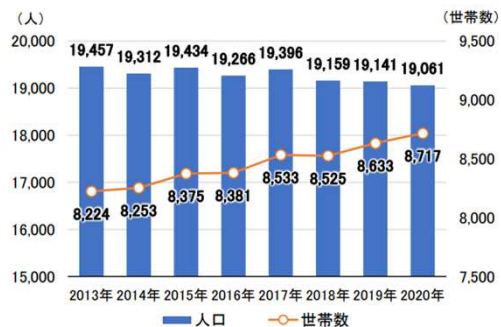
3,934人

高齢化率

21.4%

出典：R2国勢調査

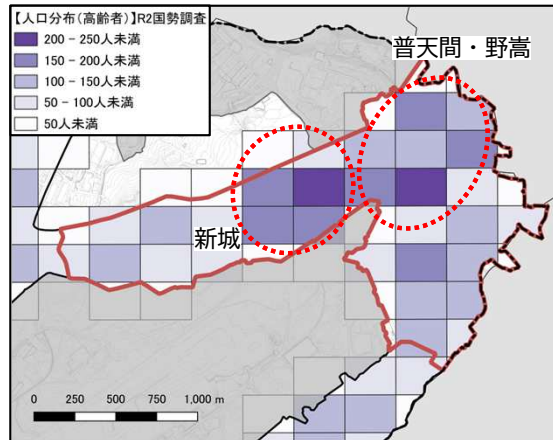
■地区別人口・世帯数の推移



出典：住民基本台帳（各年4月末日）

出典：宜野湾市都市計画マスタープラン

■人口分布（高齢者）

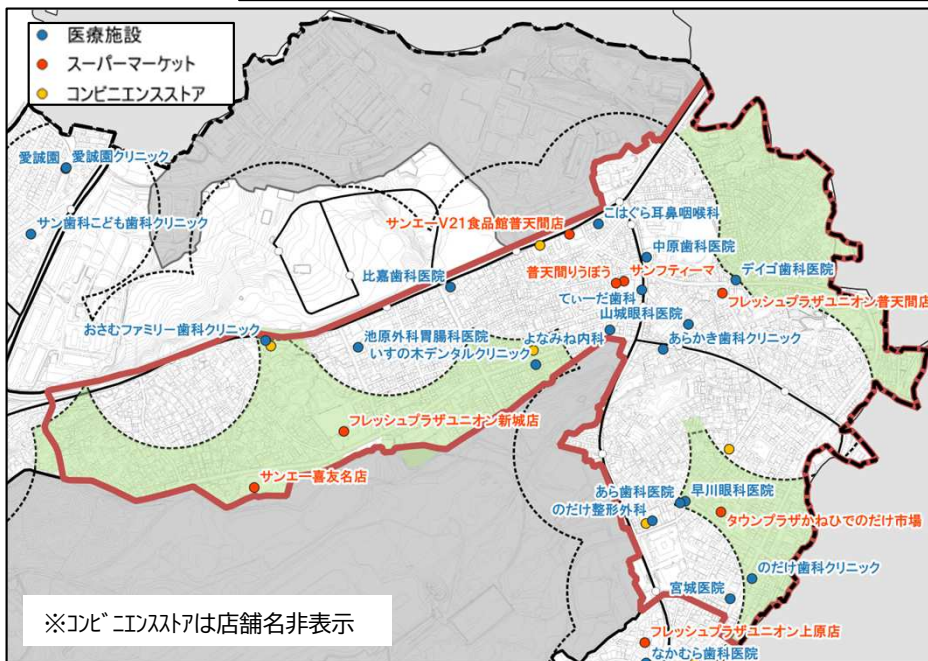


資料：R2国勢調査

- 北地区の2020年4月末の人口は19,061人である。人口は、緩やかな減少傾向で推移している。
- 高齢人口は3,934人である。高齢化率は21.4%で、超高齢化社会の基準とされている21.0%を超えている。
- 高齢者は、普天間・野嵩・新城に多く分布している。
- 商業施設は12施設あり、スーパーもコンビニも複数ある。医療施設も複数の診療科がある。面的に立地しており充足している。
- 地区内は野嵩や新城付近の高低差が大きく坂道がある。

■施設立地状況（商業施設・医療施設）

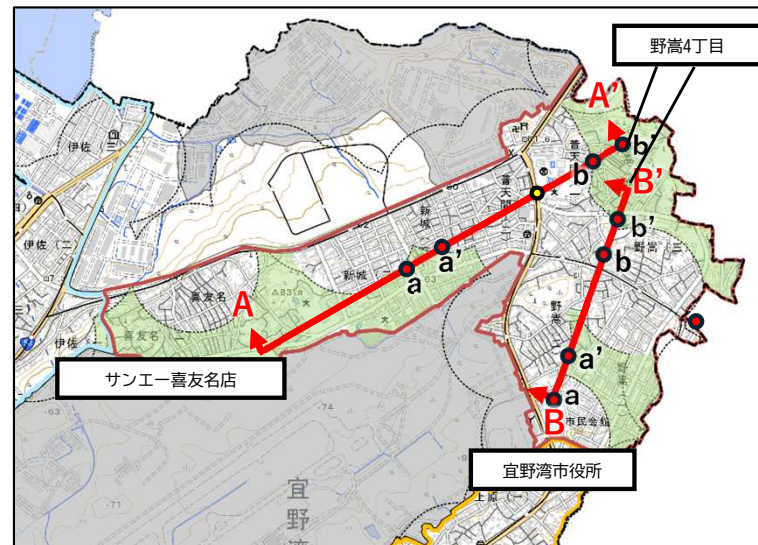
商業施設：12施設（うちコンビニエンスストア 5施設）
医療施設：16施設



※コンビニエンスストアは店舗名非表示

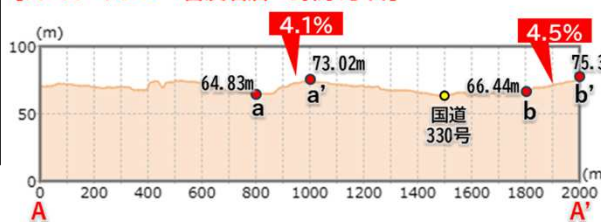
出典：市提供資料・国土数値情報|医療機関データ（R2年度版）

■勾配の状況

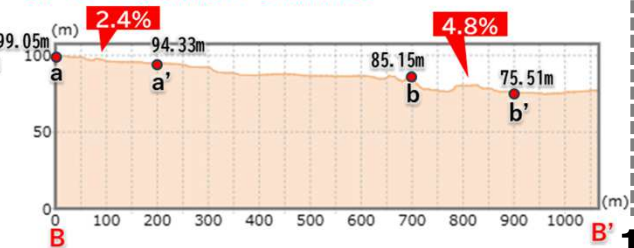


出典：国土地理院地図

【A～A' サンエー喜友名店～野嵩4丁目】



【B～B' 宜野湾市役所～野嵩4丁目】



基礎データ

- ・買物は90%以上が地区内で済ませている。通院は地区内の他に西地区や東地区にも移動先がある。買物時も、通院時ももっぱら自家用車を利用して、公共交通の利用は少ない。
- ・月に数回以上、路線バスを利用している人は13.5%、タクシーを利用している人は16.1%である。
- ・平日、土曜、日祝ともに、概ね地区内で移動が完結している。
- ・路線バスは、国道330号に平日312本/日、県道宜野湾北中城線に平日205本/日が運行している。

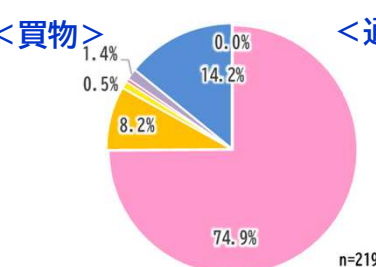
■買物、通院の外出方向

	北地区	西地区	南地区	国際学園都市地区	東地区	計
買物先 (n=164)	93%	4%	0%	0%	4%	100%
通院先 (n=59)	25%	31%	7%	15%	22%	100%

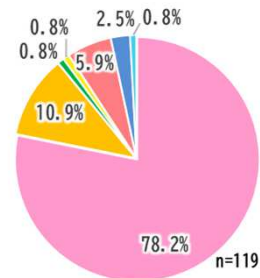
資料：R4市民アンケート

■買物時・通院時の交通手段

<買物>



<通院>



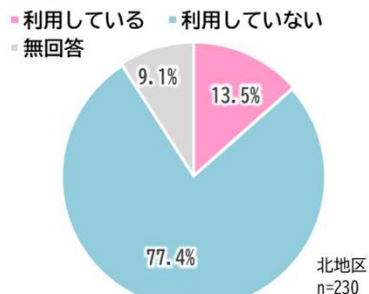
■車（自分で運転） ■車（家族等の送迎） ■車（団体等の送迎） ■路線バス
 ■コミュニティバス等 ■モノレール ■タクシー ■バイク・原付
 ■徒歩・自転車 ■その他 ■無回答

資料：R4市民アンケート

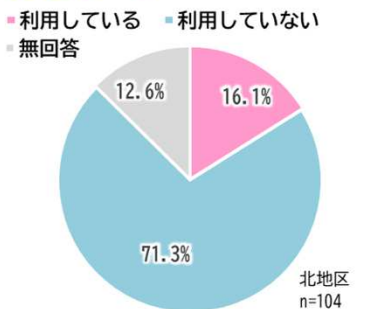
■公共交通の利用状況

※利用頻度を「週5日以上」「週に3～4日程度」「週に1～2日程度」「月に数回程度」と回答した人を「利用している」として集計

<路線バス>

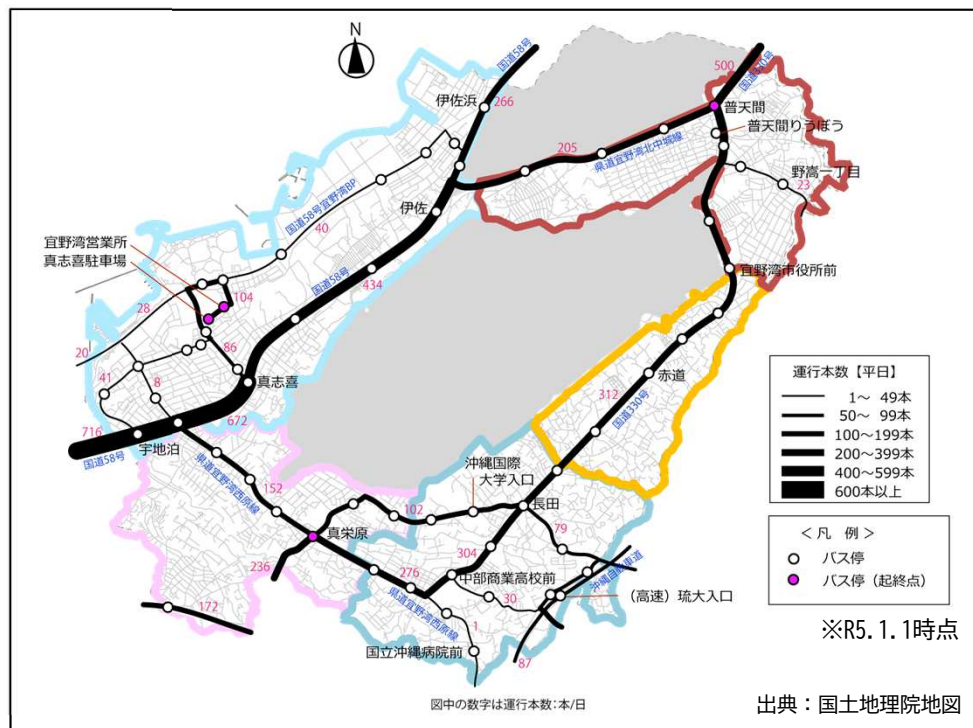


<タクシー>

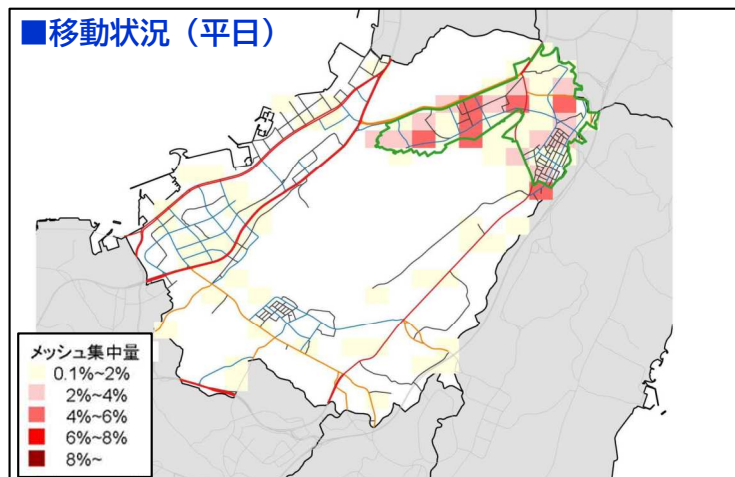


資料：R4市民アンケート

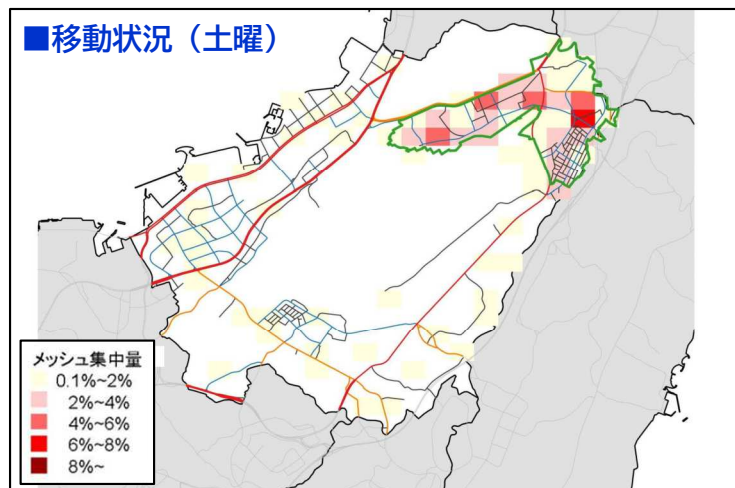
■路線バスの運行状況（平日）



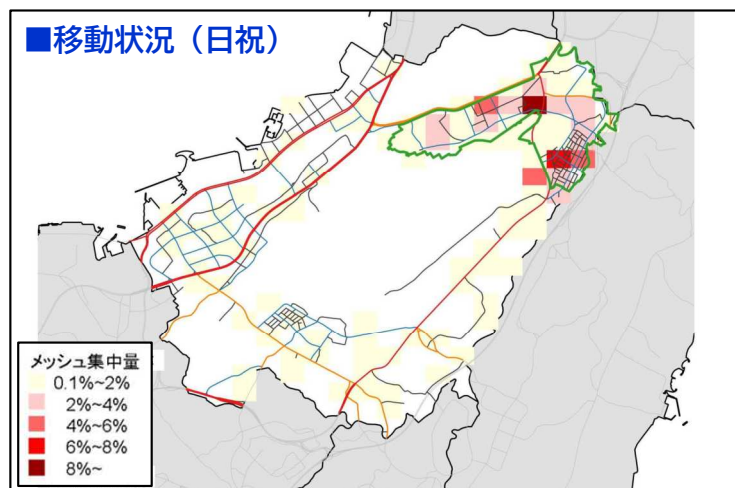
■移動状況（平日）



■移動状況（土曜）



■移動状況（日祝）

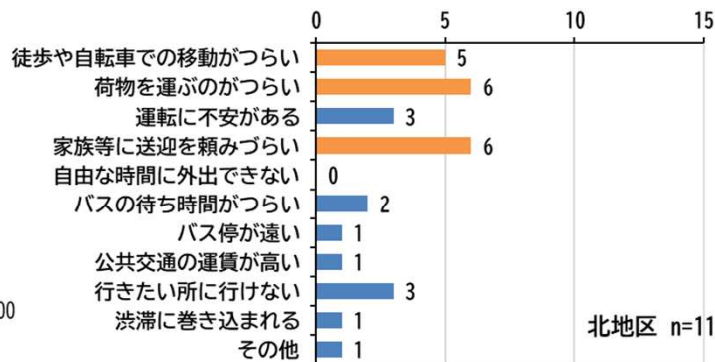
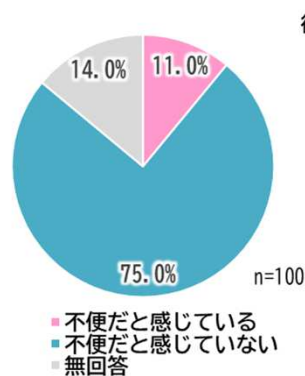


出典：宜野湾市都市交通実態調査業務委託

- 高齢者の移動の困りごとをみると、買物は11%が不便を感じており、「荷物を運ぶのがつらい」「家族等に送迎を頼みづらい」の回答が多い。通院は14.8%が不便を感じており、「家族等に送迎を頼みづらい」「バスの待ち時間がつらい」の回答が多い。
- 公共交通空白地域の面積は0.87km²、公共交通空白地域に居住する人口は5,958人である。路線バスを利用しない理由は、市民アンケート・自治会アンケートともに「バス停が遠い」が多く挙げられている。タクシーについては、電話をしてもつかまらない、運賃が高いといった意見が多くみられる。

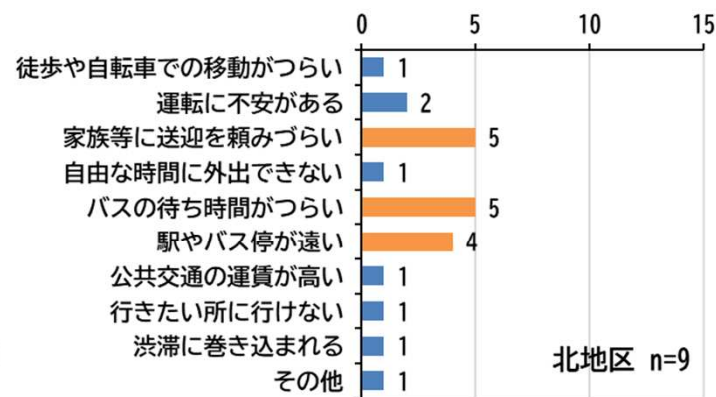
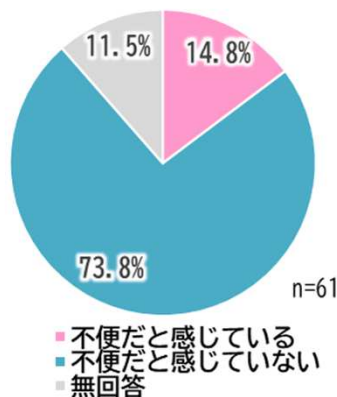
移動の困りごと

■買物の不便



※対象者：「不便だと感じている」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

■通院の不便

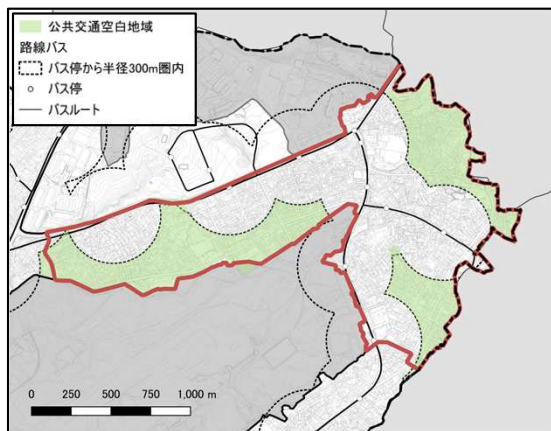


※対象者：「不便だと感じている」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

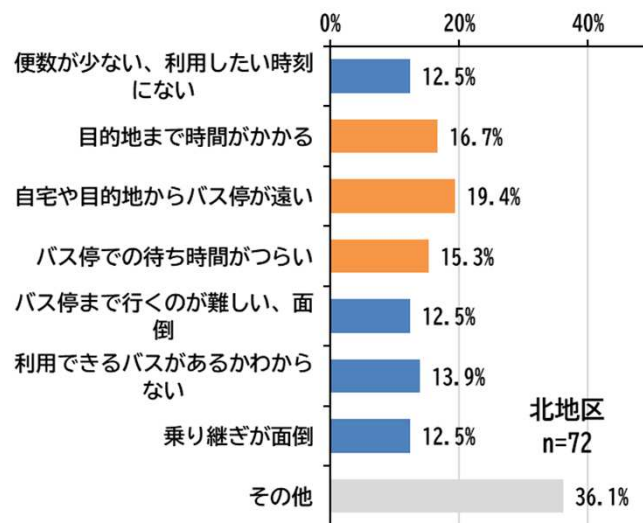
現状の公共交通への困りごと

■公共交通空白地域の状況

公共交通空白地域の面積	公共交通空白地域に居住する人口
0.87km ²	5,958人



■路線バスを利用しない理由



※対象者：路線バスを「利用していない」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

■既存公共交通に感じている不便なこと（自治会アンケート結果）

<路線バスに感じている不便さ>

- バス停まで遠い。10～15分以上かかる。（多数）
- 時間通りにこなくて、又、それを逃したら30分以上待ったりする。
- バス停で止まってほしい。乗客が来ないか確認してほしい。オキカの購入方法を高齢者の乗客に知らせてほしい。
- 市内1周線のバスがあると良い。
- 近くにバス停がない。

<タクシーに感じている不便さ>

- 朝タクシーが少ない上、無線でもつかまらず大変な思いをした。
- 夜中、緊急で使用したくなくても近くにいないということで断られた。
- 病院に行くのにつかまらない。
- 無線がつながりにくい。流しのタクシーもない。
- タクシー会社に電話してもつながらない。タクシー代が高い。
- タクシーに電話してもつながらない。運賃が高い。

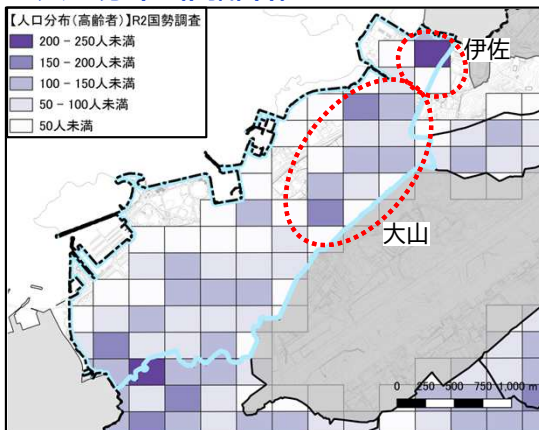
地区別 地域特性分析《西地区》（宇地泊区、真志喜区、大山区、伊佐区）

基礎データ

■地区別人口・世帯数の推移



■人口分布（高齢者）



- ・西地区の2020年4月末の人口は23,700人である。人口は増加傾向で推移している。
- ・高齢人口は3,940人、高齢化率は16.8%となっている。
- ・高齢者は、伊佐・大山に比較的多く分布している。
- ・商業施設は19施設あり、スーパーもコンビニも多く存在している。医療施設も複数の診療科がある。面的に立地しており充足している。
- ・地区内は真志喜付近の高低差が大きく坂道がある。

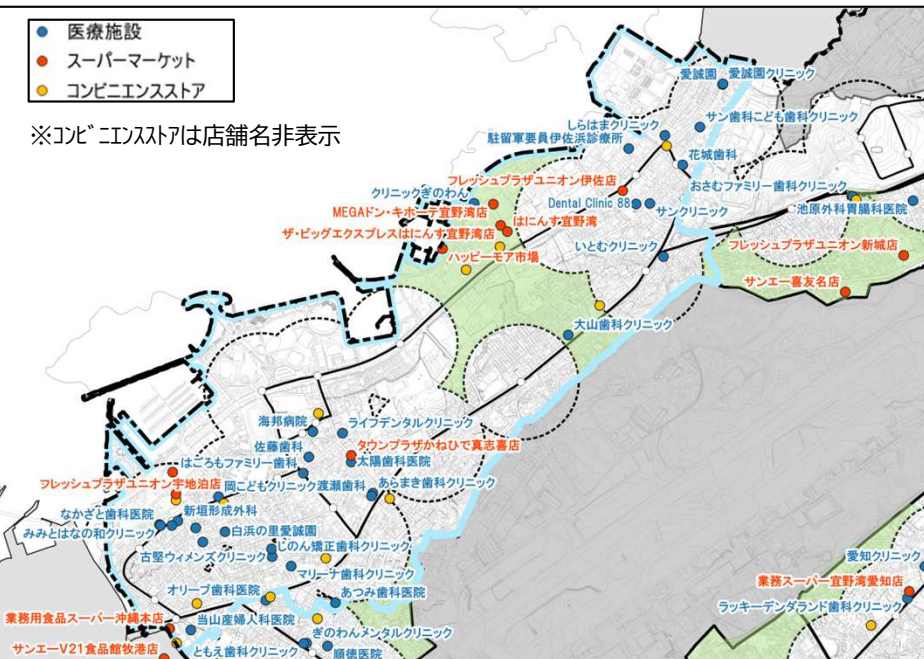
出典：R2国勢調査

出典：宜野湾市都市計画マスタープラン

資料：R2国勢調査

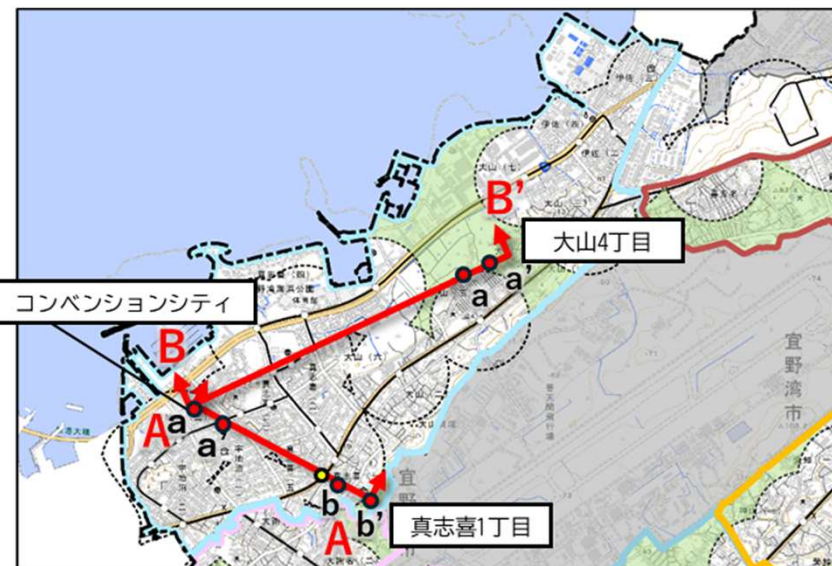
■施設立地状況（商業施設・医療施設）

商業施設：19施設（うちコンビニエンスストア 11施設）
医療施設：30施設



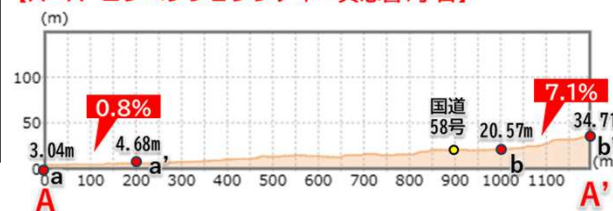
出典：市提供資料・国土数値情報|医療機関データ（R2年度版）

■勾配の状況

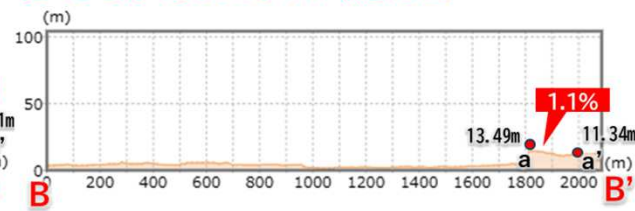


出典：国土地理院地図

【A～A' コンベンションシティ～真志喜1丁目】



【B～B' コンベンションシティ～大山4丁目】



基礎データ

- ・ 買物、通院ともに95%以上が地区内で済ませている。買物時も、通院時ももっぱら自家用車を利用して、公共交通の利用は少ない。
- ・ 月に数回以上、路線バスを利用している人は14.6%、タクシーを利用している人は13.6%である。
- ・ 平日、土曜、日祝ともに、概ね地区内で移動が完結している。
- ・ 路線バスは、国道58号に平日434本/日、国道58号宜野湾BPに平日40本/日が運行している。

■買物、通院の外出方向

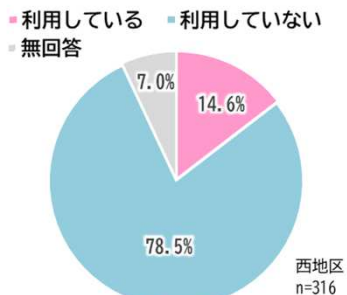
	北地区	西地区	南地区	国際学園都市地区	東地区	計
買物先 (n=218)	3%	96%	0%	0%	0%	100%
通院先 (n=75)	1%	95%	4%	0%	0%	100%

資料：R4市民アンケート

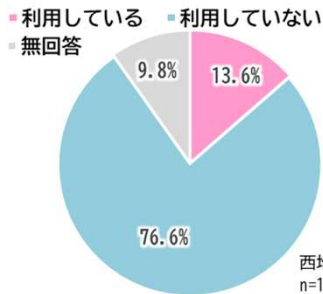
■公共交通の利用状況

※利用頻度を「週5日以上」「週に3～4日程度」「週に1～2日程度」「月に数回程度」と回答した人を「利用している」として集計

<路線バス>



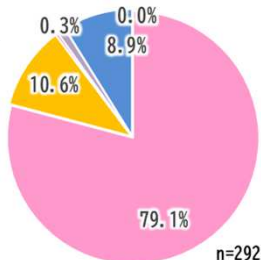
<タクシー>



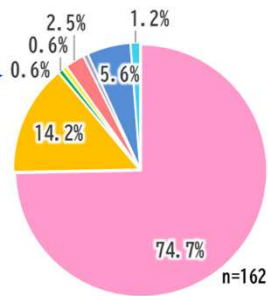
資料：R4市民アンケート

■買物時・通院時の交通手段

<買物>



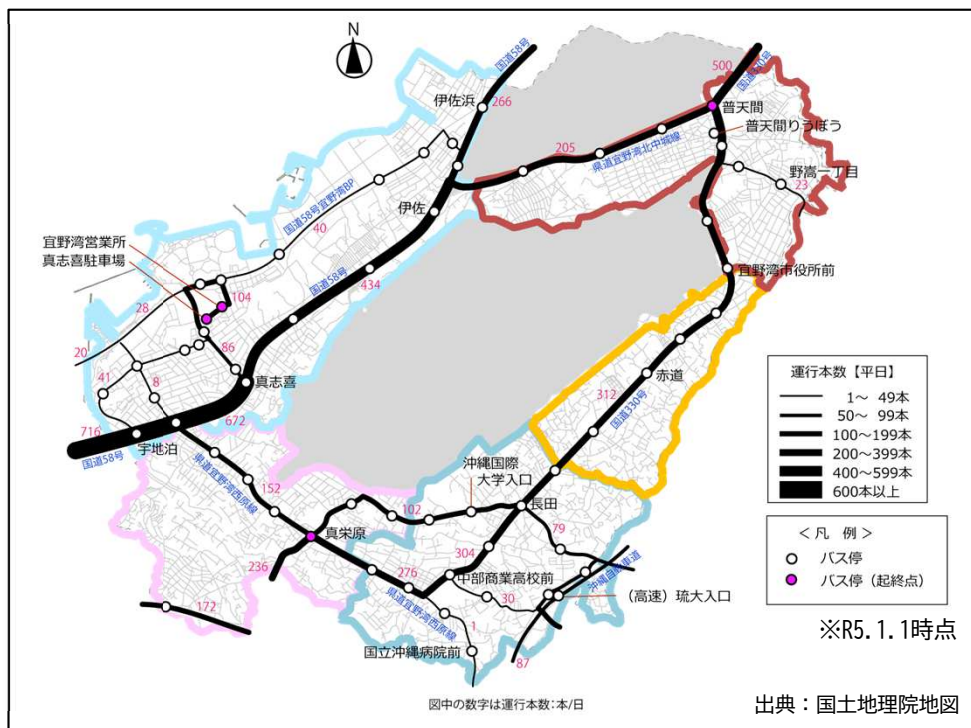
<通院>



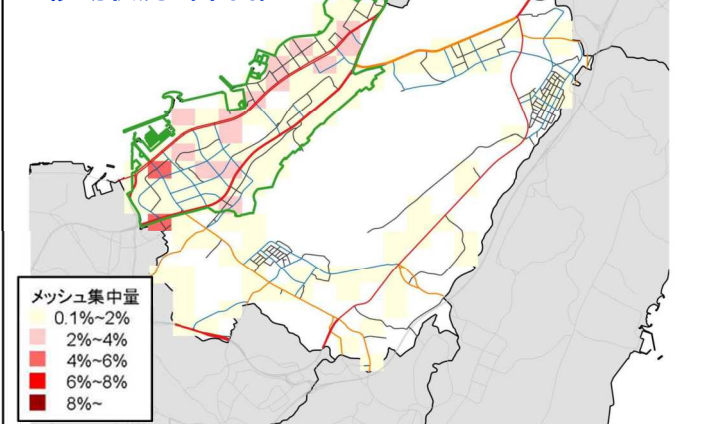
■車（自分で運転） ■車（家族等の送迎） ■車（団体等の送迎） ■路線バス
■コミュニティバス等 ■モノレール ■タクシー ■バイク・原付
■徒歩・自転車 ■その他 ■無回答

資料：R4市民アンケート

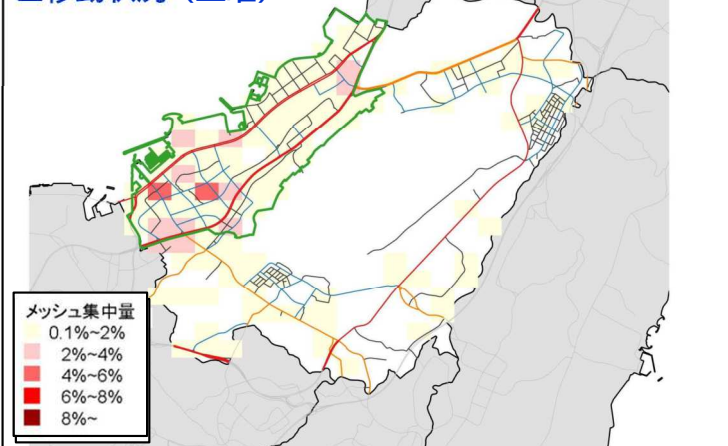
■路線バスの運行状況（平日）



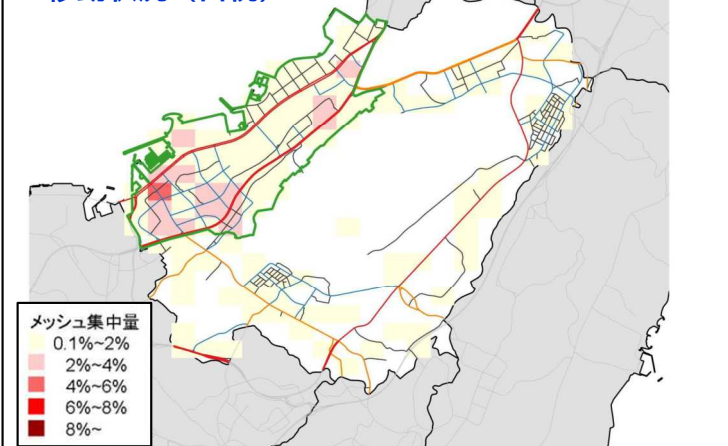
■移動状況（平日）



■移動状況（土曜）



■移動状況（日祝）

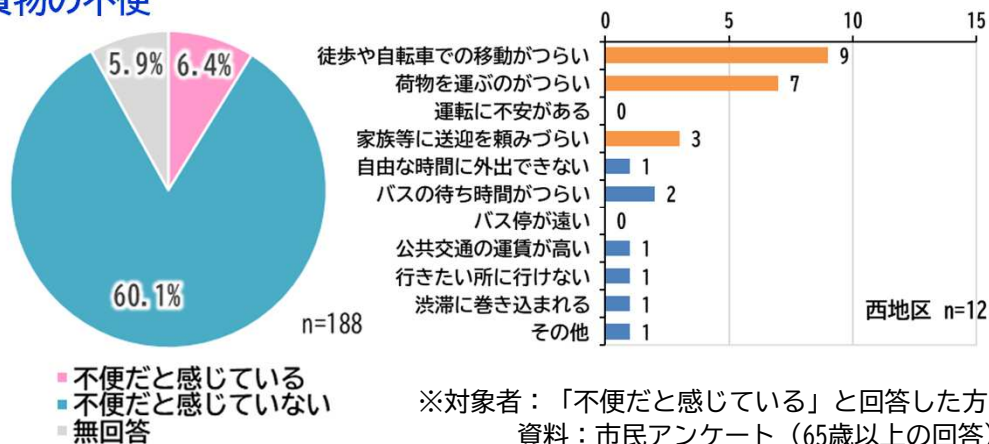


出典：宜野湾市都市交通実態調査業務委託

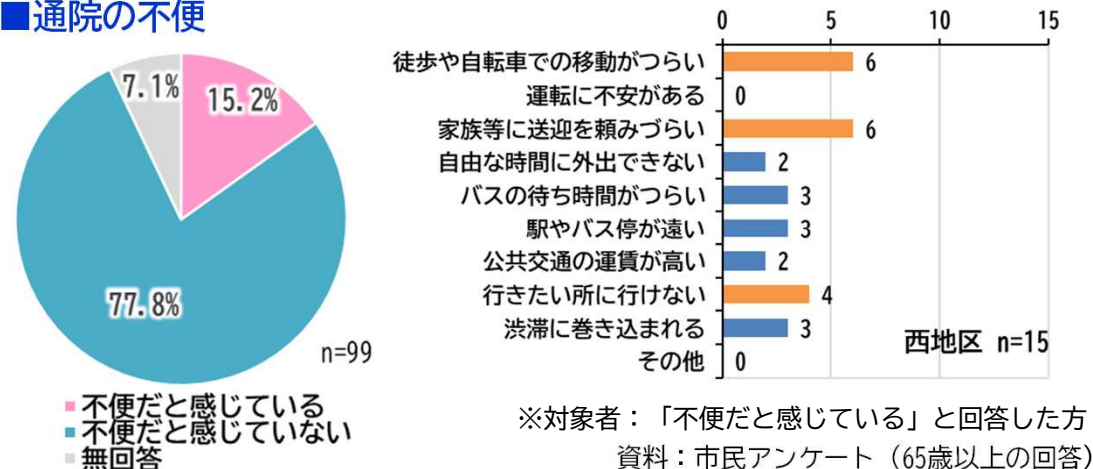
- 高齢者の移動の困りごとをみると、買物は6.4%が不便を感じており、「徒歩や自転車での移動がづらい」「荷物を運ぶのがづらい」の回答が多い。通院は15.2%が不便を感じており、「徒歩や自転車での移動がづらい」「家族等に送迎を頼みづらい」の回答が多い。
- 公共交通空白地域の面積は0.66km²、公共交通空白地域に居住する人口は1,228人である。路線バスを利用しない理由は、「便数が少ない」「目的地まで時間がかかる」の意見が多い。路線バス、タクシーともに、自治会アンケートでは「利用していない」の意見も多くみられた。

移動の困りごと

■買物の不便



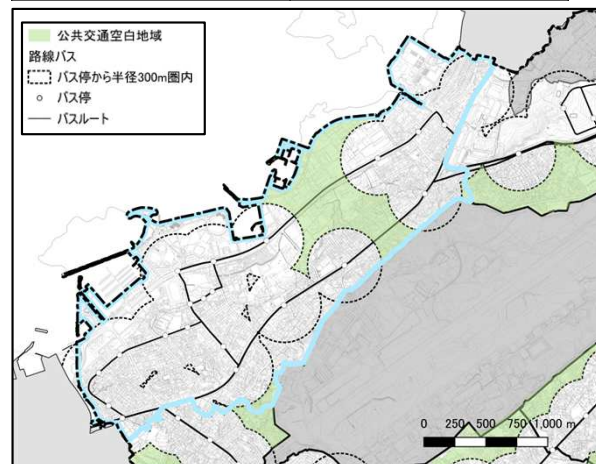
■通院の不便



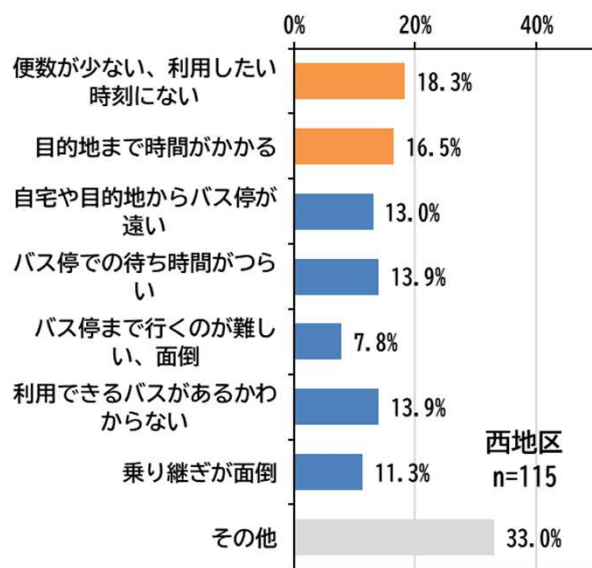
現状の公共交通への困りごと

■公共交通空白地域の状況

公共交通空白地域の面積	公共交通空白地域に居住する人口
0.66km ²	1,228人



■路線バスを利用しない理由



※対象者：路線バスを「利用していない」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

■既存公共交通に感じている不便なこと (自治会アンケート結果)

<路線バスに感じている不便さ>

- 利用していない（多数）
- 自家用車を利用している（多数）
- 9時以降の本数が少なすぎる
- 便数が少ない、バス停まで遠い、身体的につらい

- タイミングがあれば利用している
- 特に不便はない

<タクシーに感じている不便さ>

- 利用していない（多数）
- 運賃が高い（複数）
- 自家用車を利用している（複数）
- 待ち時間が長い
- 利用したいがタクシーが少ない

- タイミングがあれば利用している
- サウナの帰りに利用
- 手荷物がある時、買物の帰りに利用

- ・ 公共交通空白地域に居住する65歳以上で運転免許を保有していない人は、90人と試算される。
- ・ 新たな交通サービスに望む機能は、自宅近くまで来てくれる、電話予約ができる、コミュニティバスなど、多様な意見がみられた。
- ・ 宜野湾市都市計画マスタープランの地域別構想における交通に関連する記載は、交通渋滞緩和や観光客の回遊性向上に資するものを中心となっている。

新たな交通サービスへのニーズ

公共交通空白地域に居住する65歳以上で
運転免許を保有していない人（試算）

90人

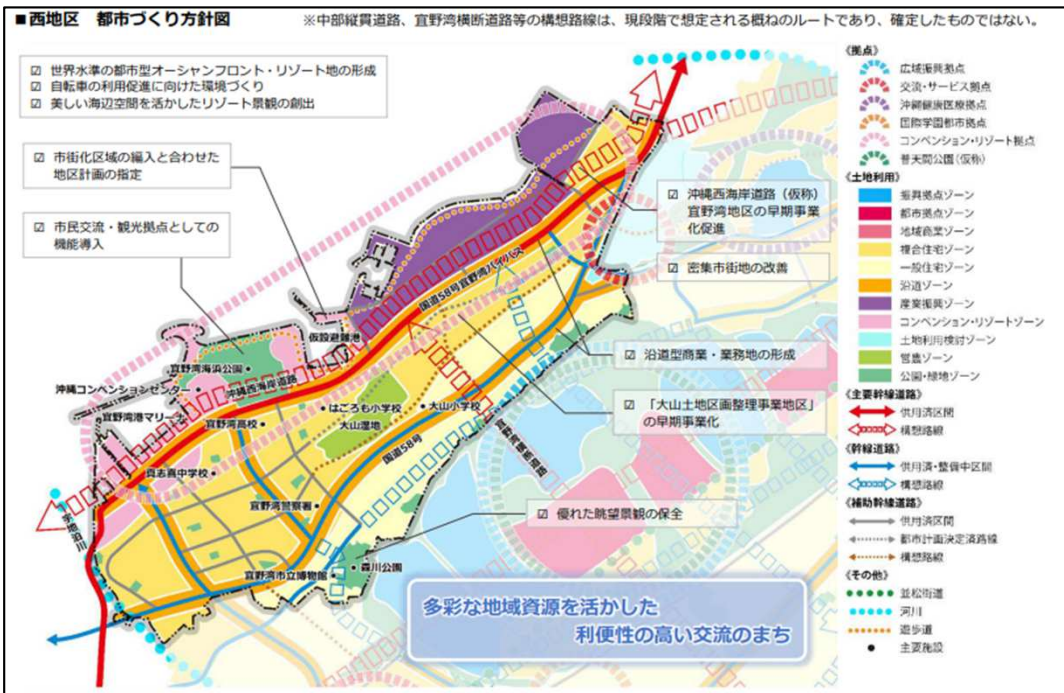
試算の方法：人口（65歳以上）×非免許保有率（33.7%）

※人口はR2国勢調査の250m人口メッシュより面積按分で算出
※免許保有率はR2.7時点（出典：県警資料、R2国勢調査）

■新たな交通サービスに望む機能 （自治会アンケート結果）

- ・ 無料にしてほしい
- ・ 自宅近くまで来てくれて、スーパーや病院等に連れていってくれる
- ・ コミュニティバス
- ・ 一律の料金
- ・ 小中学生用
- ・ 電話予約
- ・ 自宅近くまで来てくれるサービス、待ち時間が20分以内
- ・ 定期コミュニティバス
- ・ 将来的には「自宅近くまで来てくれるサービス」「待ち時間が20分以内」「電話予約ができる」といった機能があるといいが、待ち時間は早い方がいい

都市計画マスタープラン（地域別構想）



▼交通に関連する記載

《利便性と魅力の向上に資する環境整備》

- 地域住民や観光客の利便性の向上に寄与する商業・業務地の形成に向けて、国道 58 号や国道 58 号宜野湾バイパス沿道における沿道型商業・業務施設の誘導を図ります。
- 宜野湾横断道路は、大山土地地区画整理事業や普天間飛行場跡地利用との連携を図りながら、西側区間におけるルートの検討と円滑な整備を促進します。
- 幹線道路の交通渋滞の緩和や、西海岸エリアと周辺地域とのアクセス向上に向けて、都市計画道路の計画的な整備や延伸等について検討します。特に、中部縦貫道路や国道 58 号を補完する道路として、大謝名真志喜線の延伸について検討します。
- 都市計画の変更により土地地区画整理事業地区外となった伊佐地区では、道路事業による基盤整備を推進しながら、生活環境の改善を図ります。
- 北谷町及び浦添市も含めたコンベンション・リゾート拠点一帯の回遊性を高めるため、プロムナードの整備やシェアサイクルの推進など、自転車の利用促進に向けた環境づくりに取り組みます。
- 中南部地域における広域道路網の形成や西海岸エリアの渋滞緩和を図るため、「沖縄西海岸道路（仮称）宜野湾地区」の早期事業化を促進します。事業化にあたっては、関係機関との連携を図り、インターチェンジの設置など本地区へのアクセス向上にも繋がる整備のあり方を検討します。
- （仮称）真栄原真志喜線のうち、国道 58 号と大謝名真志喜線を繋ぐ区間については、早期事業化を目指します。
- 国道 58 号宜野湾バイパスは、関係機関との連携により渋滞対策を促進します。また、大謝名交差点や伊佐交差点周辺の渋滞対策についても検討します。

交通渋滞緩和や観光客の回遊性向上に資するものを中心に記載されている。

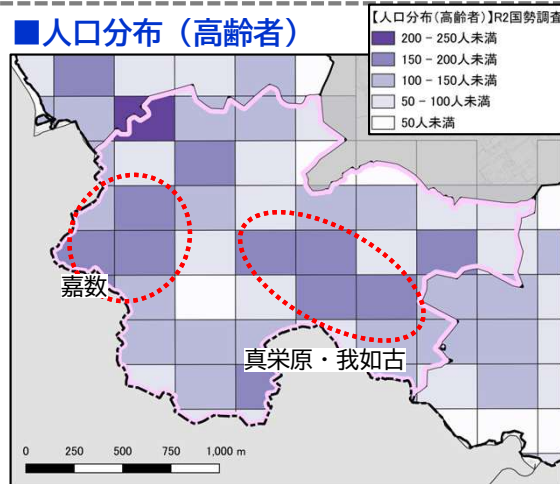
地区別 地域特性分析《南地区》（真栄原区、嘉数区、上大謝名区、大謝名区、嘉数ハイツ、大謝名団地）

基礎データ

■地区別人口・世帯数の推移



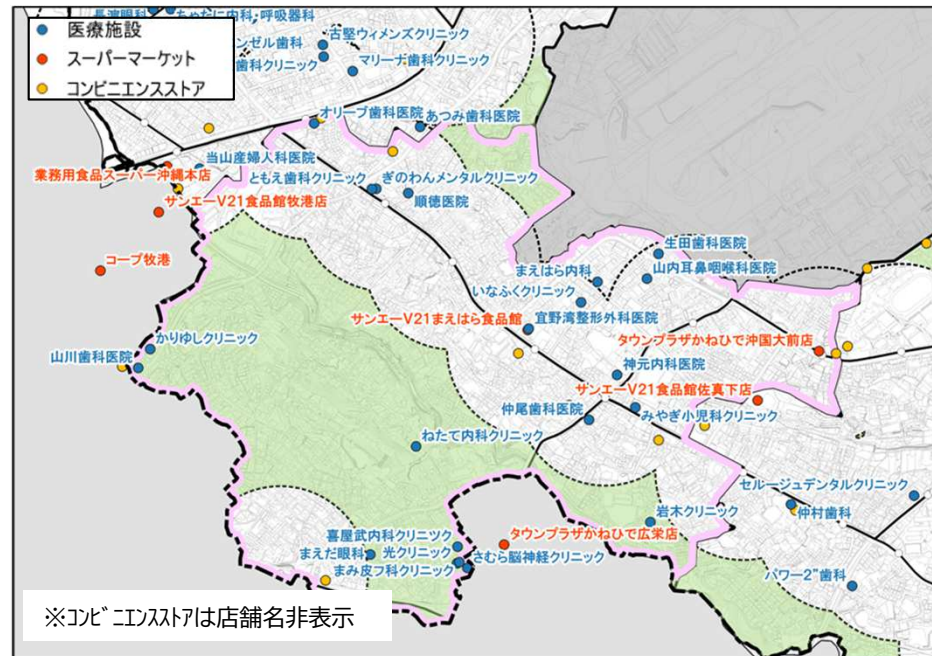
■人口分布（高齢者）



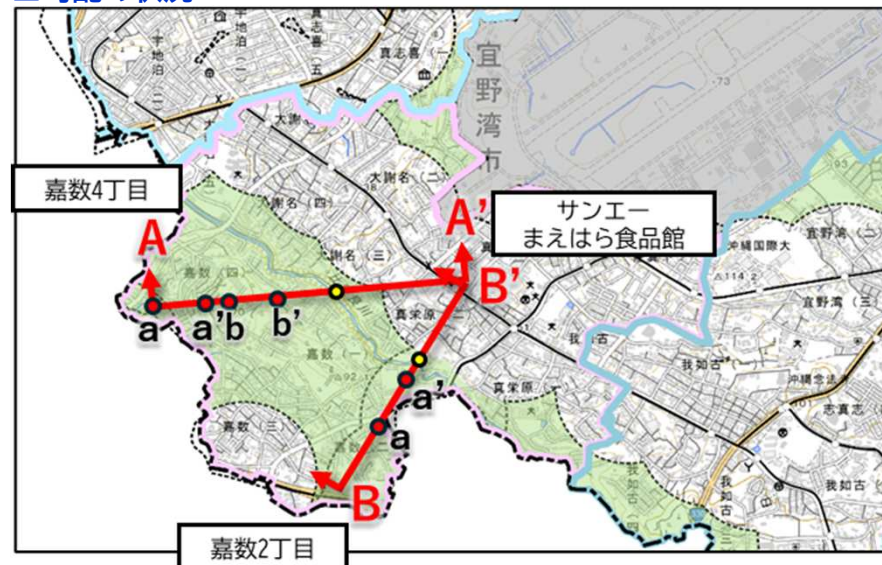
- 南地区の2020年4月末の人口は20,591人である。人口は増加傾向で推移している。
- 高齢人口は4,412人である。高齢化率は21.5%であり、超高齢化社会の基準とされている21.0%を超えている。
- 高齢者は、嘉数、真栄原・我如古に多く分布している。
- 商業施設は8施設あるものの、スーパーは2施設のみであり、他地区と比較して少ない。医療施設は複数の診療科がある。商業施設・医療施設ともに県道宜野湾西原線沿線及び以北に立地している。一方で、県道以南は施設が僅かである。
- 地区内は嘉数の高低差が非常に大きく、急な勾配かつ長い坂道がある。

■施設立地状況（商業施設・医療施設）

商業施設：8施設（うちコンビニストア 6施設）
医療施設：21施設

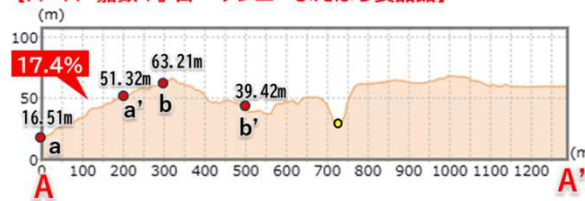


■勾配の状況

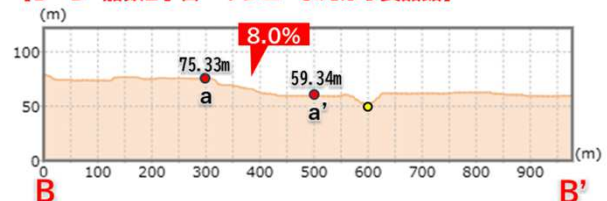


出典：国土地理院地図

【A～A' 嘉数4丁目～サンエーまえはら食品館】



【B～B' 嘉数2丁目～サンエーまえはら食品館】



基礎データ

- ・買物は約半数が地区内ですませており、次いで西地区への移動が多くみられる。通院も同様の傾向である。買物時も、通院時ももっぱら自家用車を利用して、公共交通の利用は少ない。
- ・月に数回以上、路線バスを利用している人は16.4%、タクシーを利用している人は22.5%である。
- ・平日、土曜、日祝ともに、概ね地区内と西地区で移動が完結している。
- ・路線バスは、県道宜野湾西原線に平日152本/日が運行している。

■買物、通院の外出方向

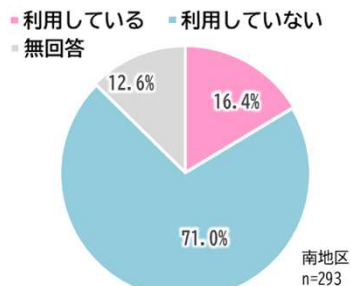
	北地区	西地区	南地区	国際学園都市地区	東地区	計
買物先 (n=134)	7%	37%	48%	6%	2%	100%
通院先 (n=73)	1%	29%	56%	5%	8%	100%

資料：R4市民アンケート

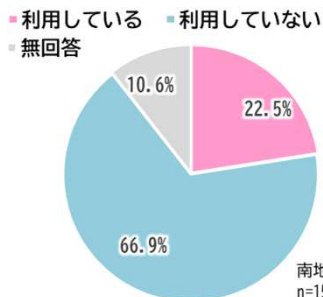
■公共交通の利用状況

※利用頻度を「週5日以上」「週に3～4日程度」「週に1～2日程度」「月に数回程度」と回答した人を「利用している」として集計

<路線バス>



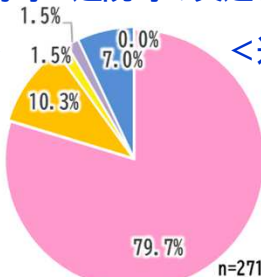
<タクシー>



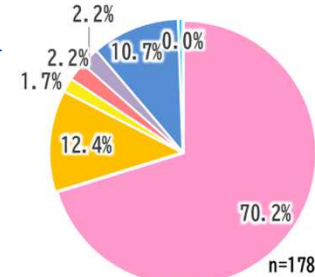
資料：R4市民アンケート

■買物時・通院時の交通手段

<買物>



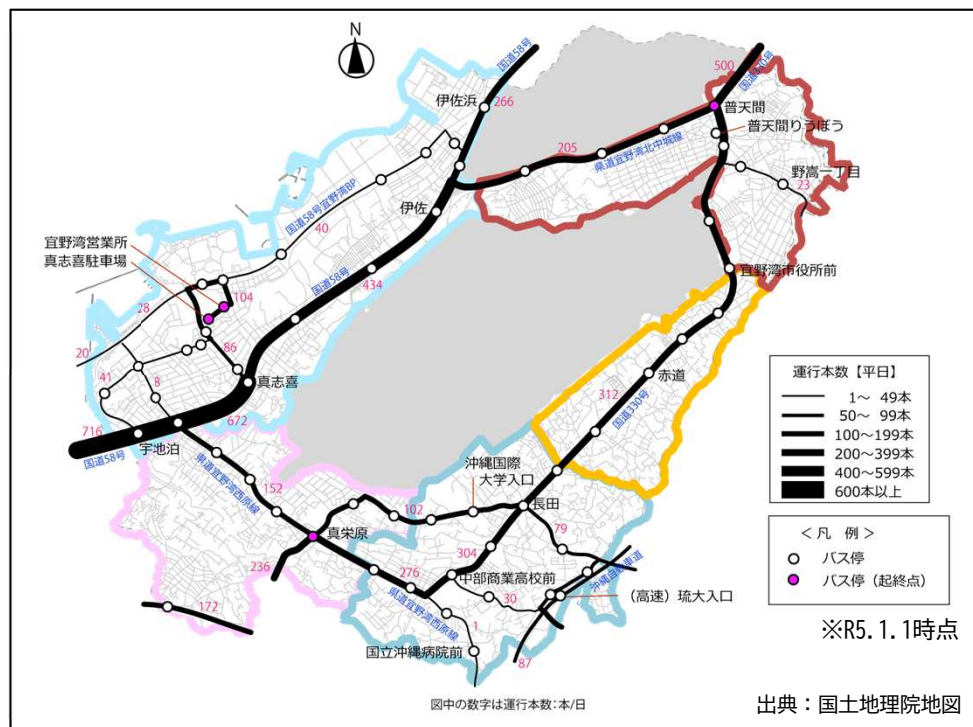
<通院>



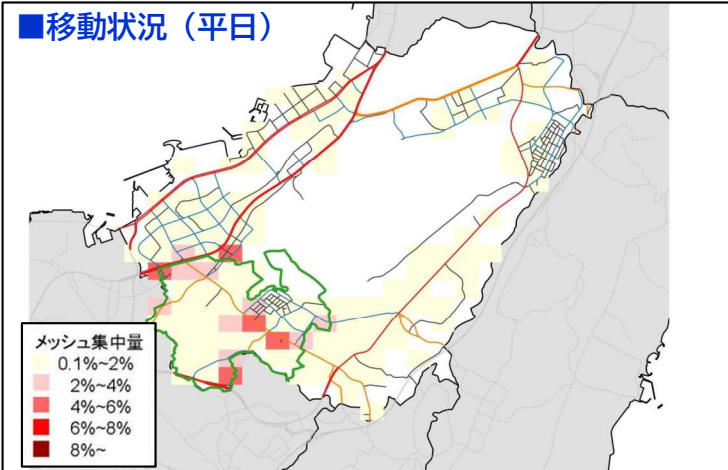
- 車（自分で運転） ■車（家族等の送迎） ■車（団体等の送迎） ■路線バス
- コミュニティバス等 ■モノレール ■タクシー ■バイク・原付
- 徒歩・自転車 ■その他 ■無回答

資料：R4市民アンケート

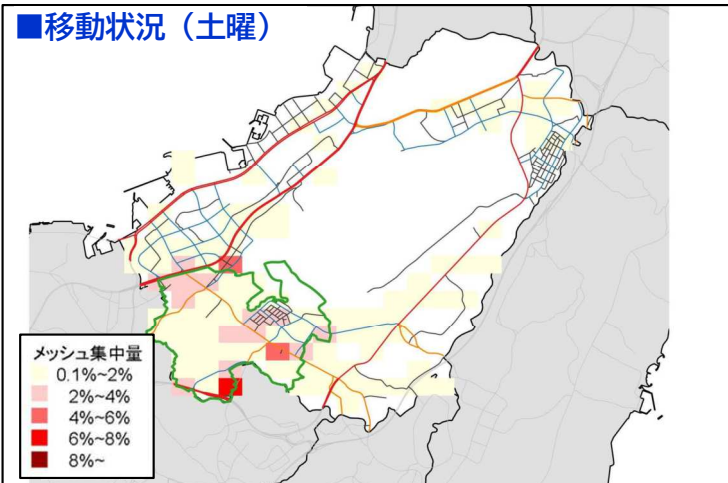
■路線バスの運行状況（平日）



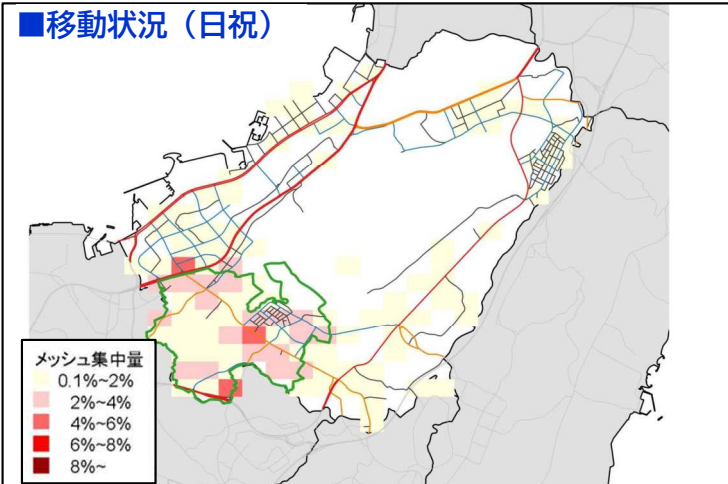
■移動状況（平日）



■移動状況（土曜）



■移動状況（日祝）

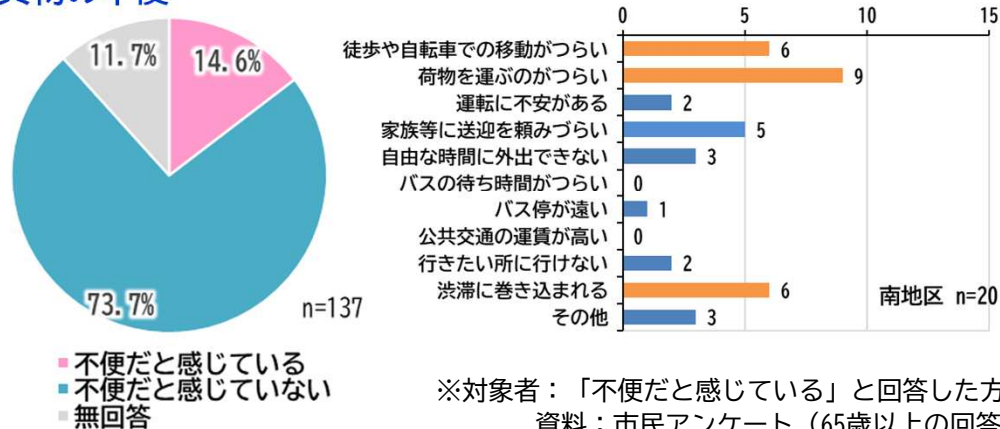


出典：宜野湾市都市交通実態調査業務委託

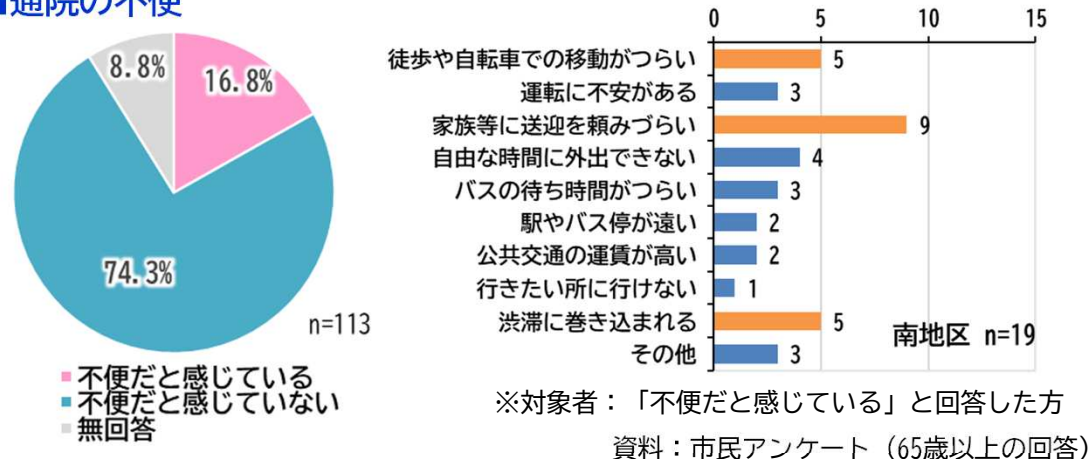
- 高齢者の移動の困りごとをみると、買物は14.6%が不便を感じており、「荷物を運ぶのがつらい」「徒歩や自転車での移動がつらい」「渋滞に巻き込まれる」の回答が多い。通院は16.8%が不便を感じており、「家族等に送迎を頼みづらい」「徒歩や自転車での移動がつらい」「渋滞に巻き込まれる」の回答が多い。
- 公共交通空白地域の面積は1.04km²、公共交通空白地域に居住する人口は6,470人である。路線バスを利用しない理由は、市民アンケート・自治会アンケートともに「バス停が遠い」の意見が多くみられる。タクシーについては、運賃が高い、タクシーがつかまらないといった意見が多くみられる。

移動の困りごと

■買物の不便



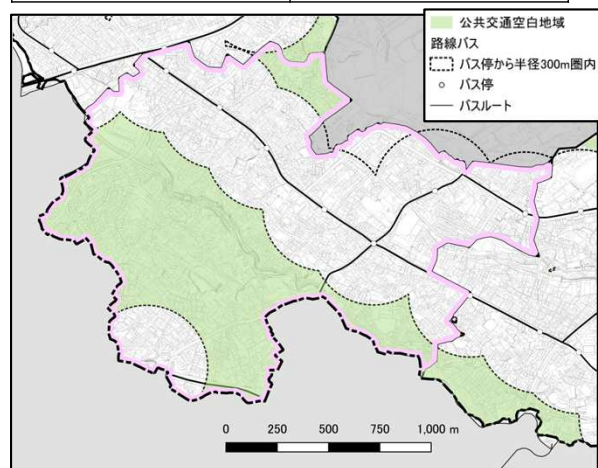
■通院の不便



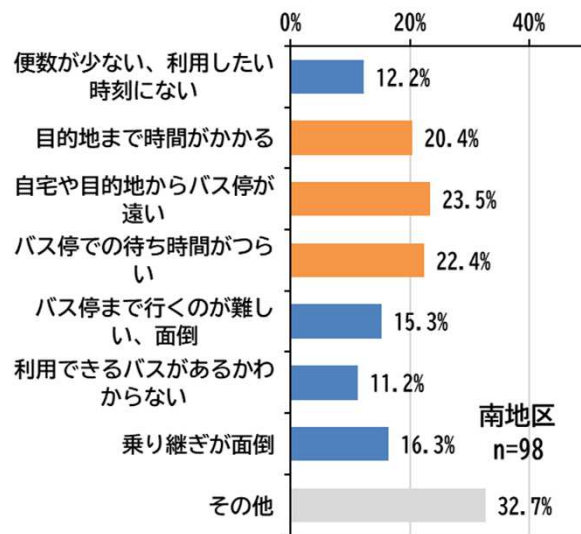
現状の公共交通への困りごと

■公共交通空白地域の状況

公共交通空白地域の面積	公共交通空白地域に居住する人口
1.04km ²	6,470人



■路線バスを利用しない理由



※対象者：路線バスを「利用していない」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

■既存公共交通に感じている不便なこと (自治会アンケート結果)

<路線バスに感じている不便さ>

- バス停まで遠い（多数）
- バス停に屋根等があれば、暑いときや雨が降っているときなども助かる。
- 長いこと待つことが出来ない（体力的につらい）
- もっとたくさんのバスが回ってほしい。（便数）
- 膝関節痛の高齢者が多く移動が大変であるため利用しない。
- 利用したいが乗り継ぎがあることで目的地まで時間がかかる。

<タクシーに感じている不便さ>

- 運賃が高い（多数）
- 近くのタクシー会社は流していない。
- 乗務員不足で車両が回転していない等の理由で利用したいけど支障が出る。昼間の時間帯は利用しやすい。
- 4時頃タクシーがつかまらない
- タクシーがなかなかこない
- 近距離だと気をつかう

- ・公共交通空白地域に居住する65歳以上で運転免許を保有していない人は、550人と試算される。
- ・新たな交通サービスに望む機能は、自宅近くまで来てくれる、市内線、利用したいときにすぐ利用できるサービスなど、多様な意見がみられた。
- ・宜野湾市都市計画マスタープランの地域別構想において、新たな交通サービスの導入を検討することが記載されている。

新たな交通サービスへのニーズ

公共交通空白地域に居住する65歳以上で
運転免許を保有していない人（試算）

550人

試算の方法：人口（65歳以上）×非免許保有率（33.7%）

※人口はR2国勢調査の250m人口メッシュより面積按分で算出
※免許保有率はR2.7時点（出典：県警資料、R2国勢調査）

■新たな交通サービスに望む機能 （自治会アンケート結果）

- ・宜野湾市でもコミュニティバスの計画があると思いますが廃案になったのか、実現せず、自宅近くまで来てくれるサービスがあった方がよい。移動手段として、特に免許返納をした高齢者にとっては非常に有難いサービスだと思う。
- ・市内線があるとよい。県道34号から市役所や真栄原へいくバスが中々こない。
- ・予約できたら良い
- ・タクシーを利用するが20分以上かかるので大変
- ・利用したいときにすぐ利用できるサービス
- ・コミュニティバスのようなものがあるとよい

都市計画マスタープラン（地域別構想）



▼交通に関連する記載（■新たな交通サービスに関する記載）

《にぎわいを支える交通環境の整備・改善》

- 普天間飛行場の跡地利用に伴い整備が予定されている中部縦貫道路については、新たな拠点形成や人・モノの移動を支える本市の新たな骨格道路として、関係機関との連携・協働のもと、円滑な整備を促進します。
- 県道34号線（宜野湾西原線）は、慢性的な交通渋滞を解消するために道路改良を促進します。また、県道34号線（宜野湾西原線）を補完し、本地区の新たな幹線道路となる（仮称）都市計画道路真栄原真志喜線は、整備手法について検討します。
- 嘉数や大謝名地区では、東西方向を繋ぐ道路が不足していることから、地区の交通処理の改善に資する道路整備について検討します。
- 嘉数地区など路線バスの利用が困難な地区が残されていることから、コミュニティバス、デマンド型タクシーなど、高齢者等の移動を支える新たな交通システムの導入可能性について検討します。



県道34号線（宜野湾西原線）

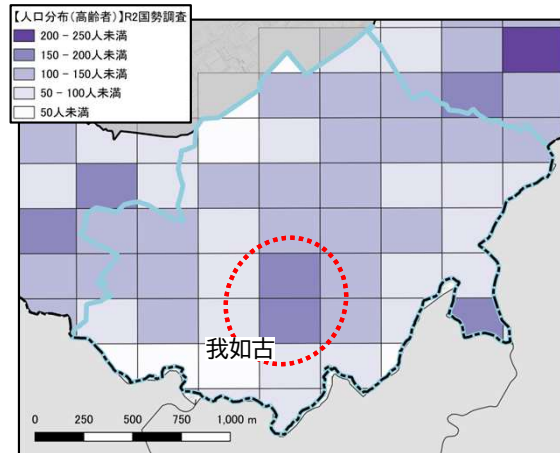
地区別 地域特性分析《国際学園都市地区》（宜野湾区、長田区、我如古区）

基礎データ

■地区別人口・世帯数の推移



■人口分布（高齢者）



- 国際学園都市地区の2020年4月末の人口は24,653人である。人口は、増加傾向で推移している。
- 高齢人口は4,125人、高齢化率は15.6%である。
- 高齢者は、我如古に比較的多く分布している。
- 商業施設は14施設あり、スーパーもコンビニも複数ある。医療施設も複数の診療科がある。国道330号や県道宜野湾西原線のほか、地区内を横断する県道32号線沿線にも立地しているため面的に充足している。
- 地区内は我如古・長田付近の高低差が大きく、坂道がある。

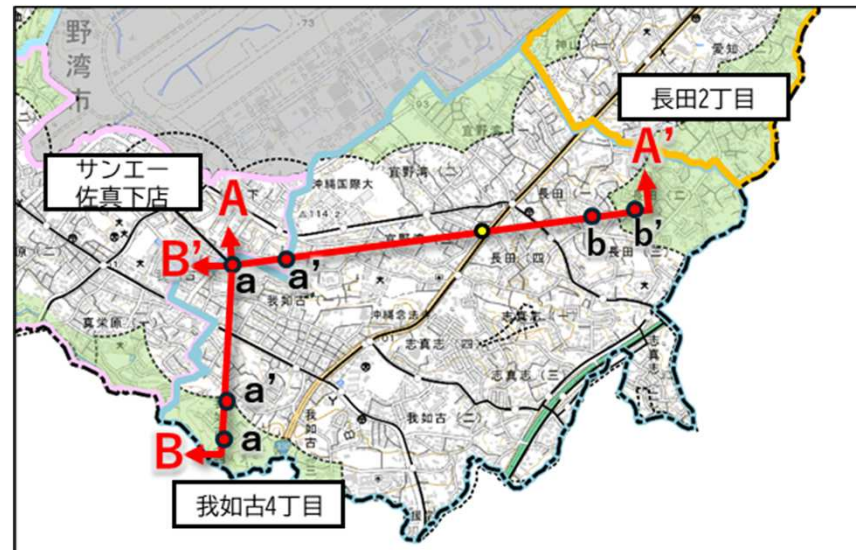
■施設立地状況（商業施設・医療施設）

商業施設：14施設（うちコンビニエンスストア 11施設）
医療施設：20施設



出典：市提供資料・国土数値情報|医療機関データ（R2年度版）

■勾配の状況

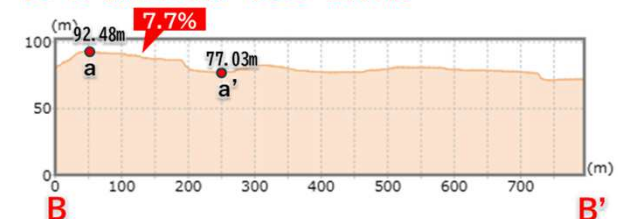


出典：国土地理院地図

【A～A' サンエー佐真下店～長田2丁目】



【B～B' 我如古4丁目～サンエー佐真下店】



基礎データ

- ・買物は約半数が地区内、次いで南地区への移動が多い。通院は地区内・南地区に加えて東地区への移動も多い。買物時・通院時とももっぱら自家用車を利用して、公共交通の利用は少ない。
- ・平日、土曜、日祝ともに、概ね地区内で移動が完結している。
- ・月に数回以上、路線バスを利用している人は14.6%、タクシーを利用している人は15.3%である。
- ・路線バスは、国道330号に平日304本/日、県道宜野湾西原線に平日276本/日が運行している。

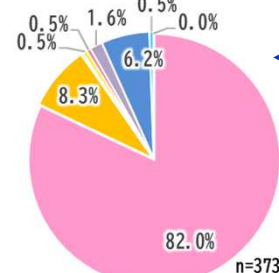
■買物、通院の外出方向

	北地区	西地区	南地区	国際学園都市地区	東地区	計
買物先 (n=202)	4%	8%	32%	53%	2%	100%
通院先 (n=97)	2%	10%	26%	40%	22%	100%

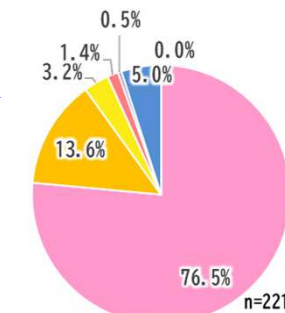
資料：R4市民アンケート

■買物時・通院時の交通手段

<買物>



<通院>



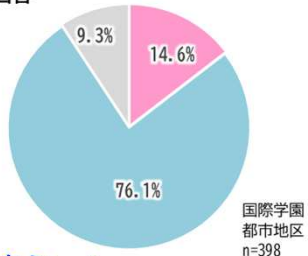
■車(自分で運転) ■車(家族等の送迎) ■車(団体等の送迎) ■路線バス
■コミュニティバス等 ■モノレール ■タクシー ■バイク・原付
■徒歩・自転車 ■その他 ■無回答 資料：R4市民アンケート

■公共交通の利用状況

※利用頻度を「週5日以上」「週に3～4日程度」「週に1～2日程度」「月に数回程度」と回答した人を「利用している」として集計

<路線バス>

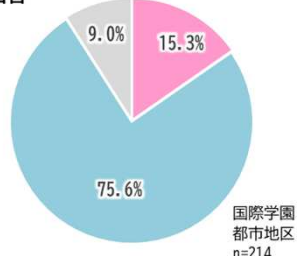
■利用している ■利用していない
■無回答



国際学園都市地区
n=398

<タクシー>

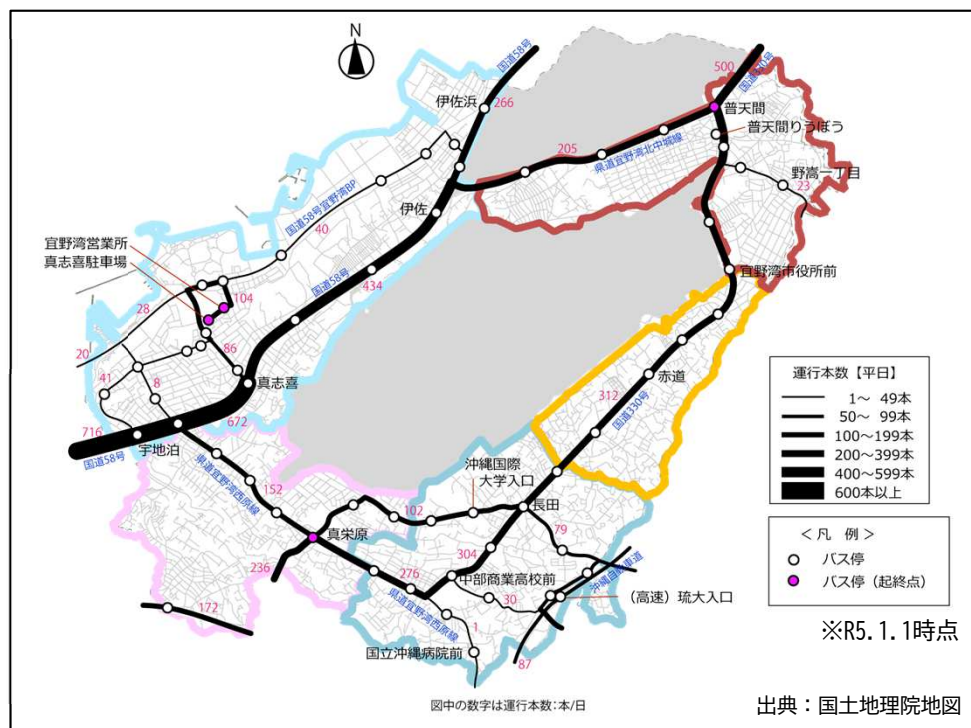
■利用している ■利用していない
■無回答



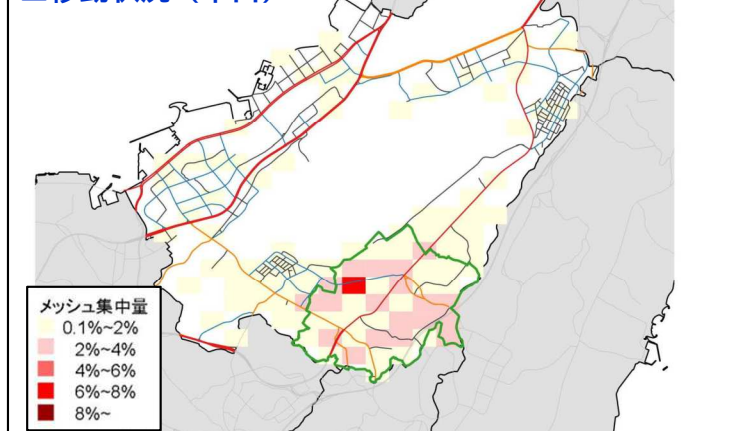
国際学園都市地区
n=214

資料：R4市民アンケート

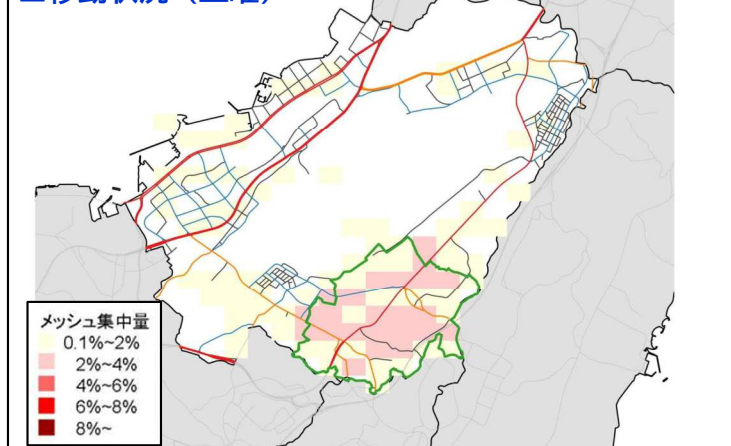
■路線バスの運行状況(平日)



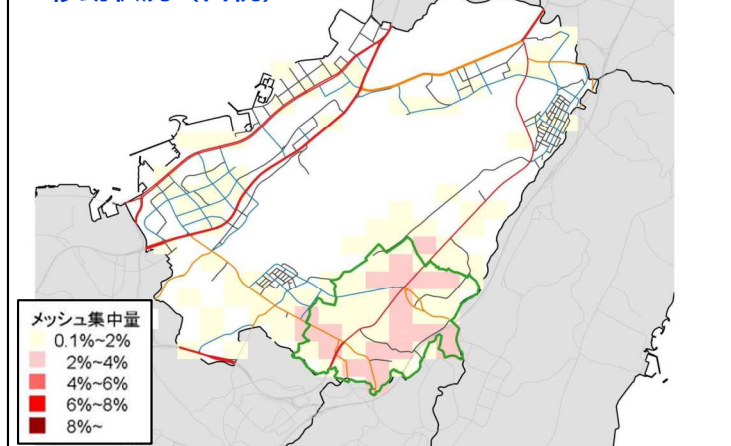
■移動状況(平日)



■移動状況(土曜)



■移動状況(日祝)

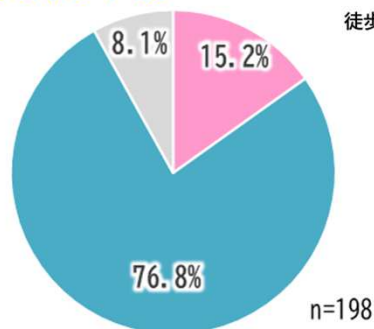


出典：宜野湾市都市交通実態調査業務委託

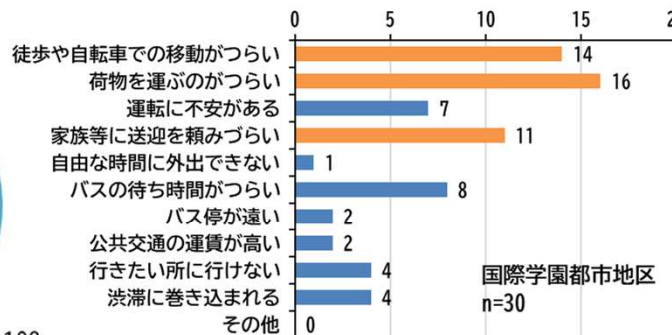
- 高齢者の移動の困りごとをみると、買物は15.2%が不便を感じており、「荷物を運ぶのがつらい」「徒歩や自転車での移動がつらい」「家族等に送迎を頼みづらい」の回答が多い。通院は16.0%が不便を感じており、「家族等に送迎を頼みづらい」「徒歩や自転車での移動がつらい」の回答が多い。
- 公共交通空白地域の面積は0.45km²、公共交通空白地域に居住する人口は3,025人である。路線バスを利用しない理由は、「目的地まで時間がかかる」「便数が少ない、利用したい時刻にない」が多かった。自治会アンケートでは、路線バス、タクシーともに「利用していない」の回答だった。

移動の困りごと

■買物の不便

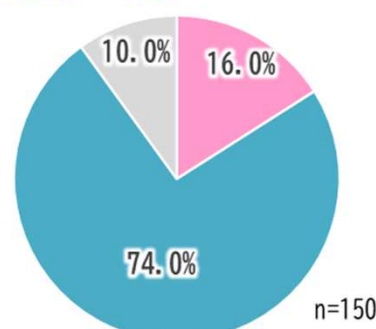


■不便だと感じている
■不便だと感じていない
■無回答

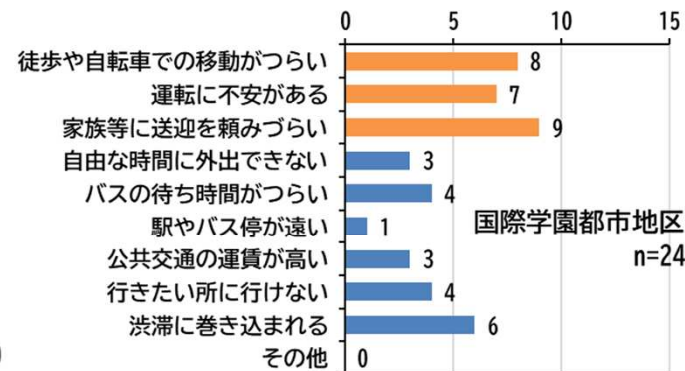


※対象者：「不便だと感じている」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

■通院の不便



■不便だと感じている
■不便だと感じていない
■無回答

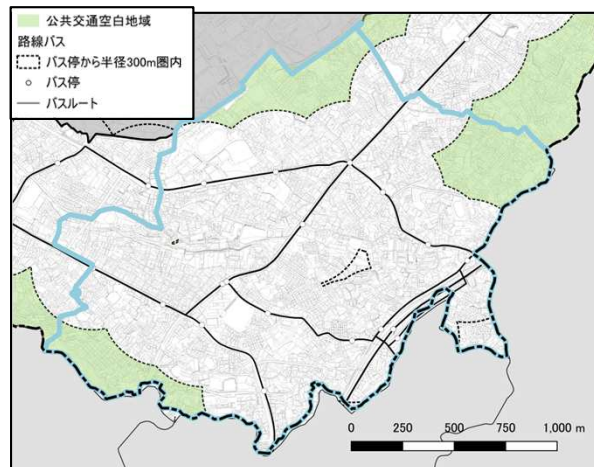


※対象者：「不便だと感じている」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

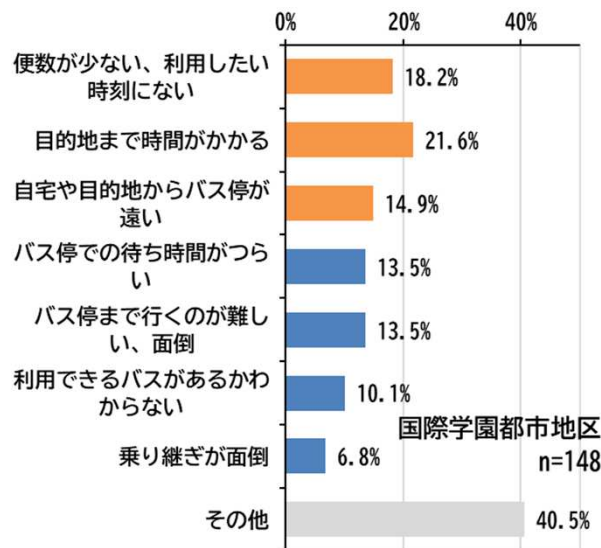
現状の公共交通への困りごと

■公共交通空白地域の状況

公共交通空白地域の面積	公共交通空白地域に居住する人口
0.45km ²	3,025人



■路線バスを利用しない理由



※対象者：路線バスを「利用していない」と回答した方
資料：市民アンケート（65歳以上の回答）

■既存公共交通に感じている不便なこと（自治会アンケート結果）

＜路線バスに感じている不便さ＞ ※地区内の自治会3か所のうち、1か所のみ回答

- 利用していない

＜タクシーに感じている不便さ＞ ※地区内の自治会3か所のうち、1か所のみ回答

- 利用していない

- ・ 公共交通空白地域に居住する65歳以上で運転免許を保有していない人は、172人と試算される。
- ・ 新たな交通サービスに望む機能は、自宅近くまで来てくれるサービス、電話予約ができるが回答されている。
- ・ 宜野湾市都市計画マスタープランの地域別構想における交通に関連する記載は、交通渋滞対策や交通安全対策などが中心となっている。

新たな交通サービスへのニーズ

公共交通空白地域に居住する65歳以上で
運転免許を保有していない人（試算）

172人

試算の方法：人口（65歳以上）×非免許保有率（33.7%）

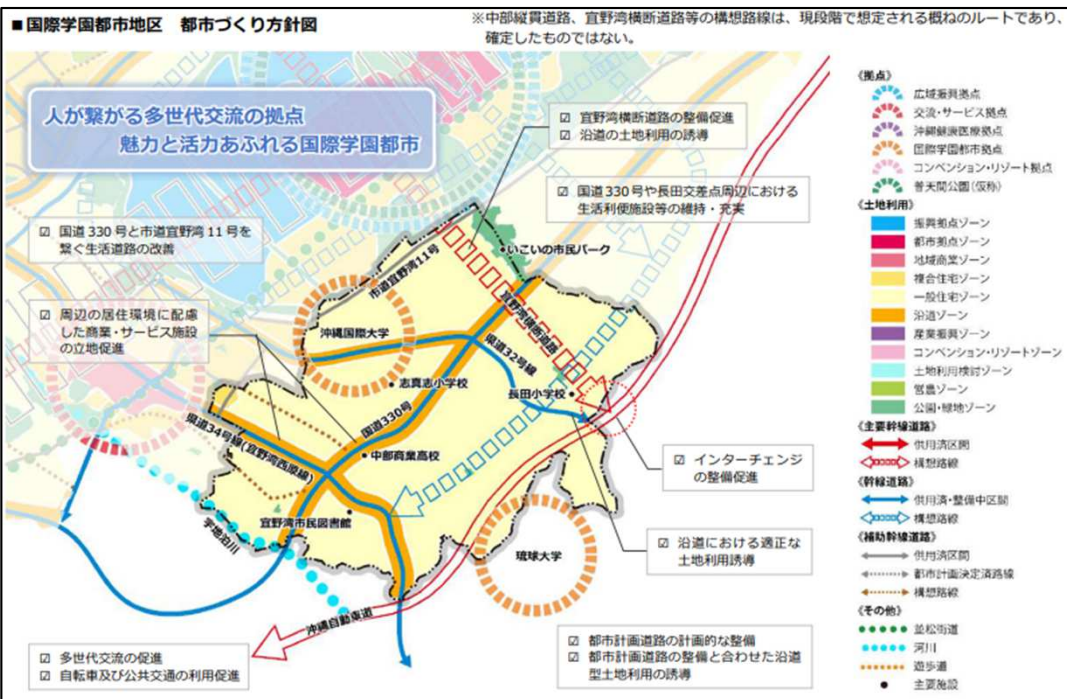
※人口はR2国勢調査の250m人口メッシュより面積按分で算出
※免許保有率はR2.7時点(出典：県警資料、R2国勢調査)

■新たな交通サービスに望む機能（自治会アンケート結果）

※地区内の自治会3か所のうち、1か所のみ回答

- ・ 自宅近くまで来てくれるサービス
- ・ 電話予約ができる。

都市計画マスタープラン（地域別構想）



▼交通に関連する記載

《安全・安心な道路環境の整備》

- 本地区の中心的な幹線道路となる国道 330 号は、慢性的な交通渋滞がみられることから、道路環境の改善等による交通渋滞対策を促進します。また、国道 330 号と市道等の接続部では、事故防止の観点から道路交通環境のあり方について検討するなど、関係機関との連携等により安全性の確保に努めます。
- 緊急車両の通行を妨げる狭隘道路が多く残されている居住地においては、必要な都市基盤の整備を図ります。
- 地区に暮らす子どもたちの安全な通学環境の確保に向けて、ハード・ソフト両面から交通安全や防犯まちづくりの強化に取り組みます。

交通渋滞対策や交通安全対策などが中心に記載されている。

地区別 地域特性分析《東地区》（中原区、愛知県）

基礎データ

人口

11,903人

出典：住民基本台帳
（2020年4月末時点）

高齢人口

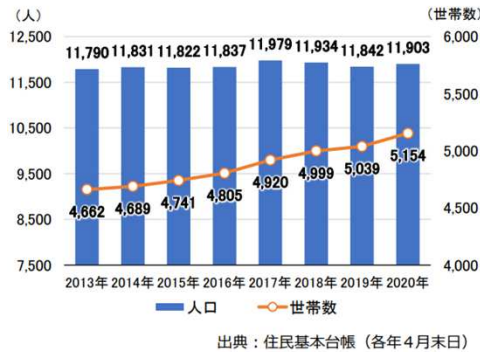
2,514人

高齢化率

22.0%

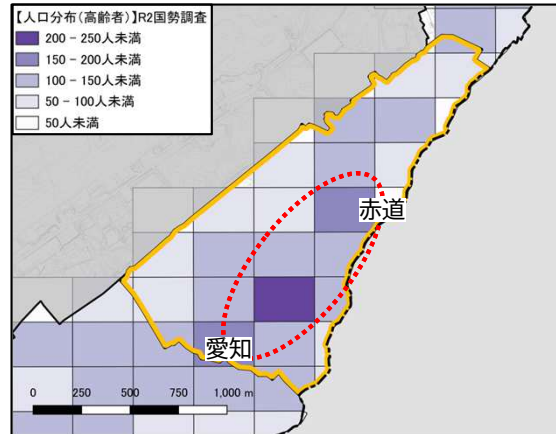
出典：R2国勢調査

■地区別人口・世帯数の推移



出典：宜野湾市都市計画マスタープラン

■人口分布（高齢者）

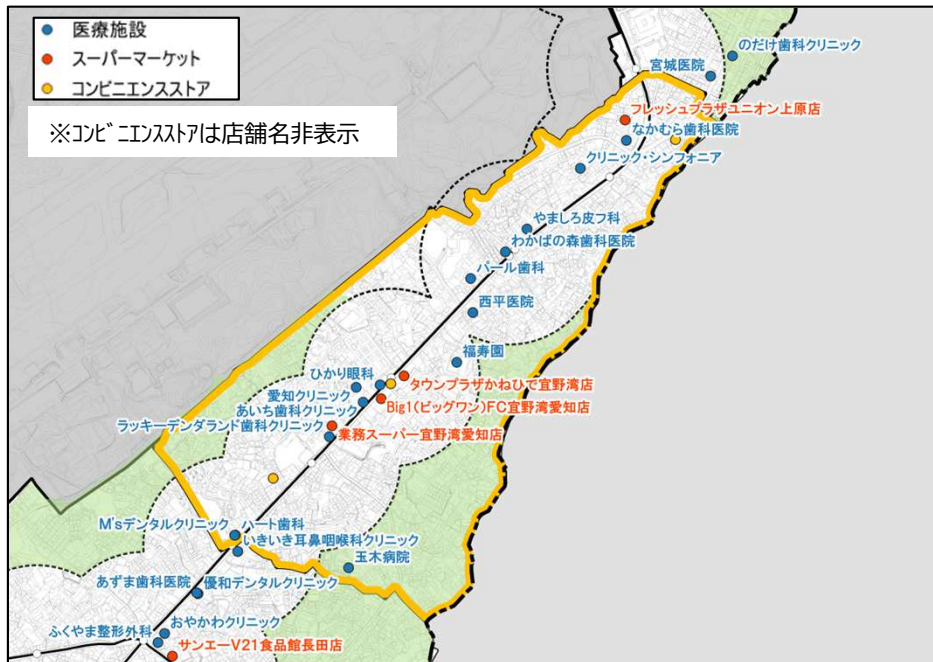


資料：R2国勢調査

- 東地区の2020年4月末の人口は11,903人である。人口は概ね横ばいで推移している。
- 高齢人口は2,514人である。高齢化率は22.0%であり、超高齢化社会の基準とされている21.0%を超えている。
- 高齢者は、愛知・赤道に比較的多く分布している。
- 商業施設は7施設あり、スーパーもコンビニも複数ある。医療施設も複数の診療科がある。商業施設・医療施設ともに、主に国道330号沿いに立地しており充足している。
- 地区内は愛知付近の高低差が大きく坂道がある。

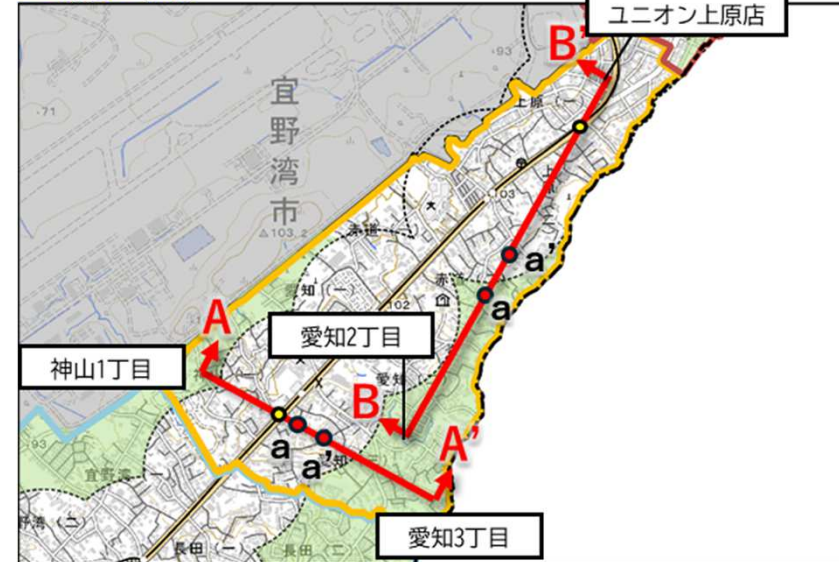
■施設立地状況（商業施設・医療施設）

商業施設：7施設（うちコンビニエンスストア 3施設）
医療施設：13施設



出典：市提供資料・国土数値情報 | 医療機関データ（R2年度版）

■勾配の状況

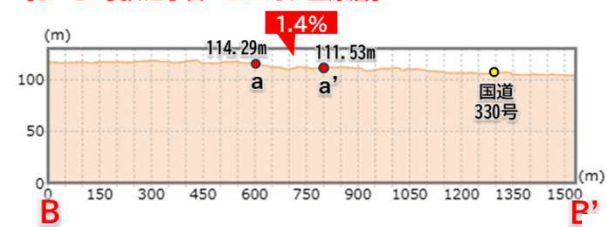


出典：国土地理院地図

【A～A' 神山1丁目～愛知3丁目】



【B～B' 愛知2丁目～ユニオン上原店】



基礎データ

- ・買物は自地区内・国際学園都市地区・北地区への移動が多い。通院は自地区内・国際学園都市地区への移動が多い。買物時・通院時ともに自家用車を利用して、公共交通の利用は少ない。
- ・月に数回以上、路線バスを利用している人は17.3%、タクシーを利用している人は17.3%である。
- ・平日、土曜、日祝ともに、概ね地区内と隣接地区境界部で移動が完結している。
- ・路線バスは、国道330号に平日312本/日が運行している。

■買物、通院の外出方向

	北地区	西地区	南地区	国際学園都市地区	東地区	計
買物先 (n=82)	26%	5%	4%	27%	39%	100%
通院先 (n=47)	2%	9%	9%	28%	53%	100%

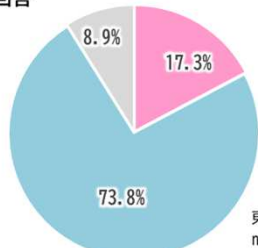
資料：R4市民アンケート

■公共交通の利用状況

※利用頻度を「週5日以上」「週に3～4日程度」「週に1～2日程度」「月に数回程度」と回答した人を「利用している」として集計

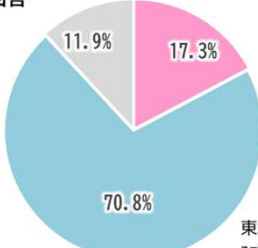
<路線バス>

●利用している ●利用していない
●無回答



<タクシー>

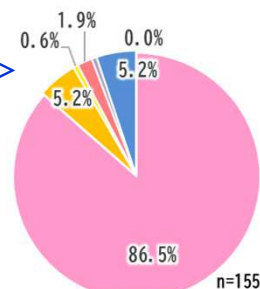
●利用している ●利用していない
●無回答



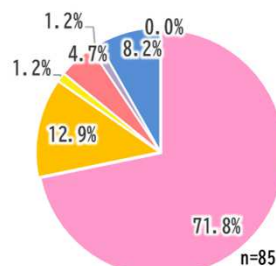
資料：R4市民アンケート

■買物時・通院時の交通手段

<買物>



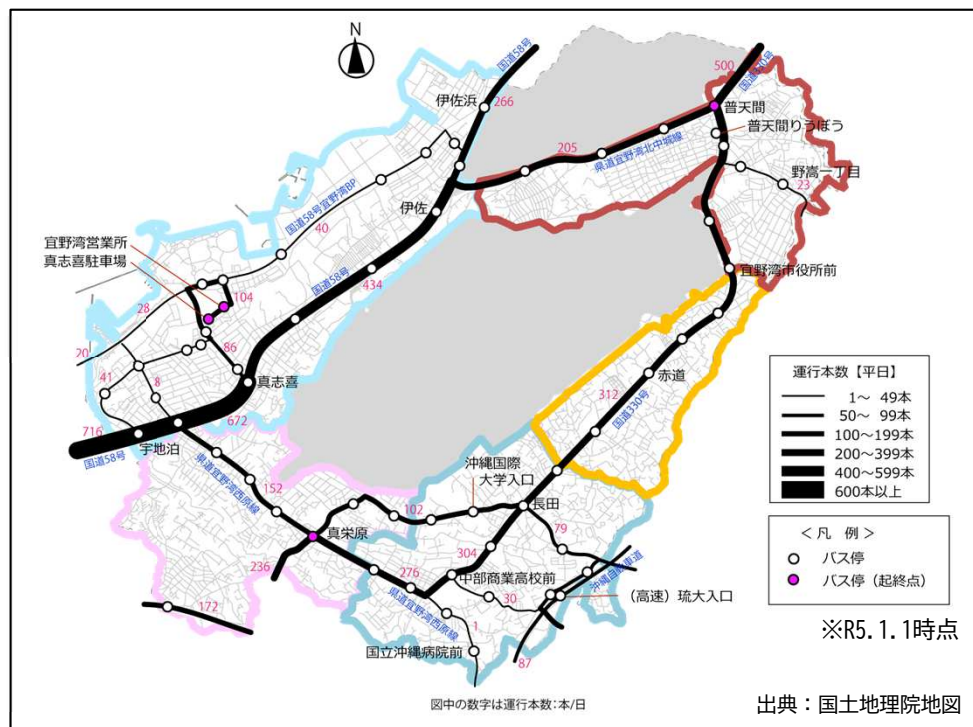
<通院>



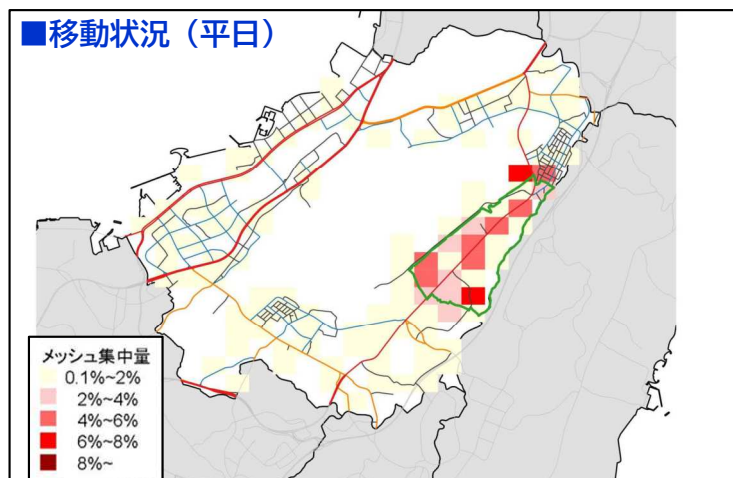
●車(自分で運転) ●車(家族等の送迎) ●車(団体等の送迎) ●路線バス
●コミュニティバス等 ●モノレール ●タクシー ●バイク・原付
●徒歩・自転車 ●その他 ●無回答

資料：R4市民アンケート

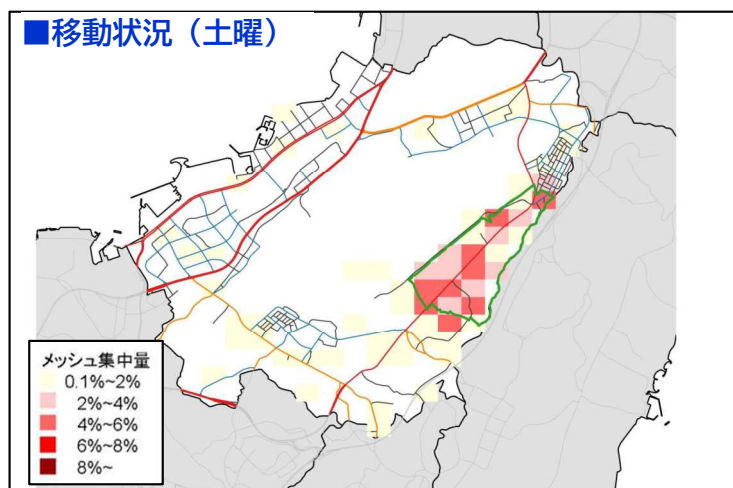
■路線バスの運行状況(平日)



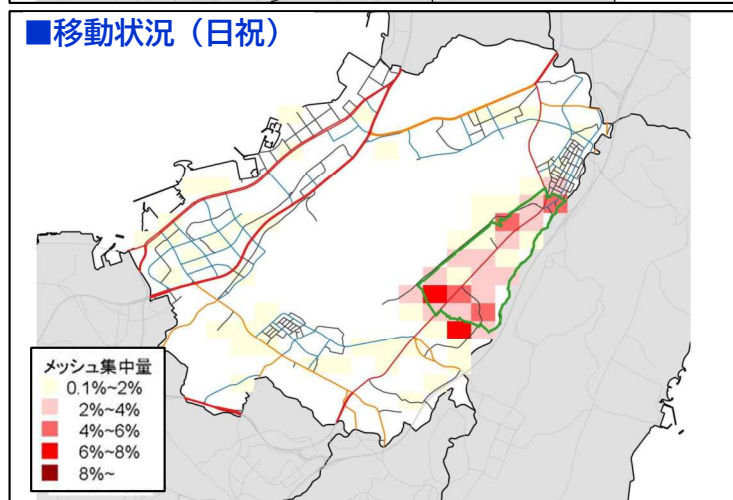
■移動状況(平日)



■移動状況(土曜)



■移動状況(日祝)

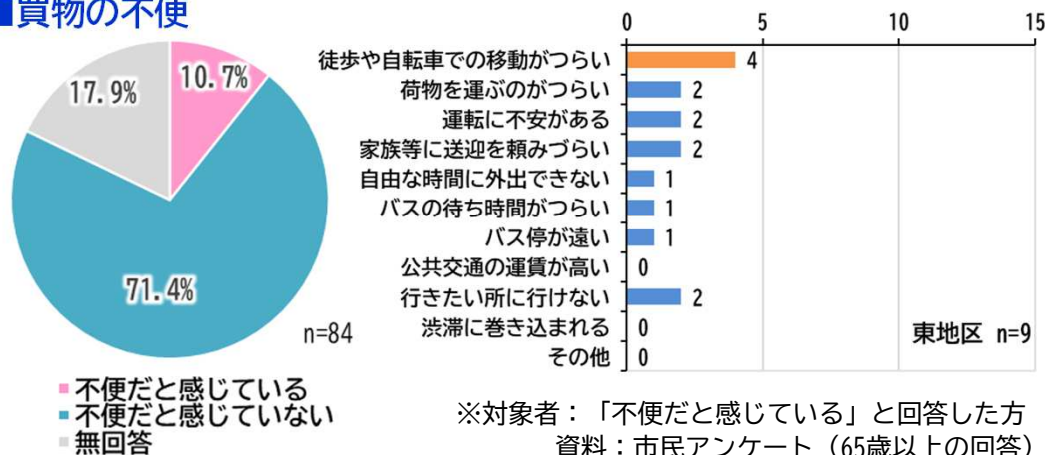


出典：宜野湾市都市交通実態調査業務委託

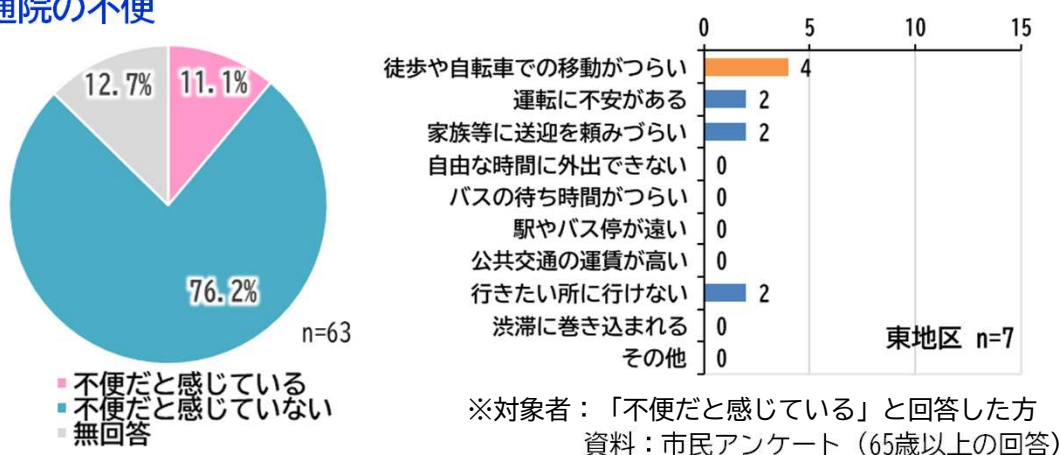
- ・高齢者の移動の困りごとをみると、買物は10.7%が不便を感じており、「徒歩や自転車での移動がづらい」の回答が多い。通院は11.1%が不便を感じており、「徒歩や自転車での移動がづらい」の回答が多い。
- ・公共交通空白地域の面積は0.37km²、公共交通空白地域に居住する人口は2,760人である。路線バスを利用しない理由は、「バス停での待ち時間がづらい」の意見が多くみられる。タクシーについては、料金が安い、台数が少ない、などの意見があった。

移動の困りごと

■買物の不便



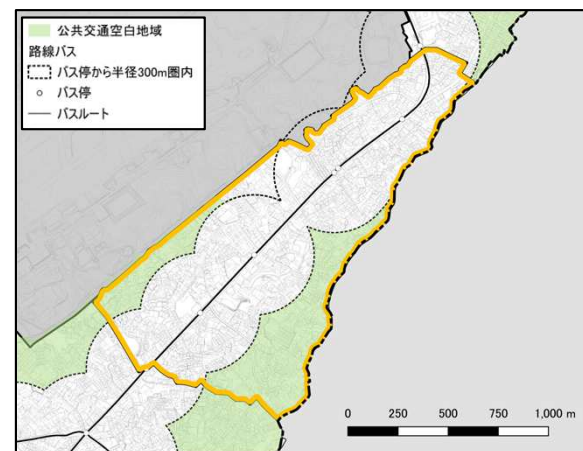
■通院の不便



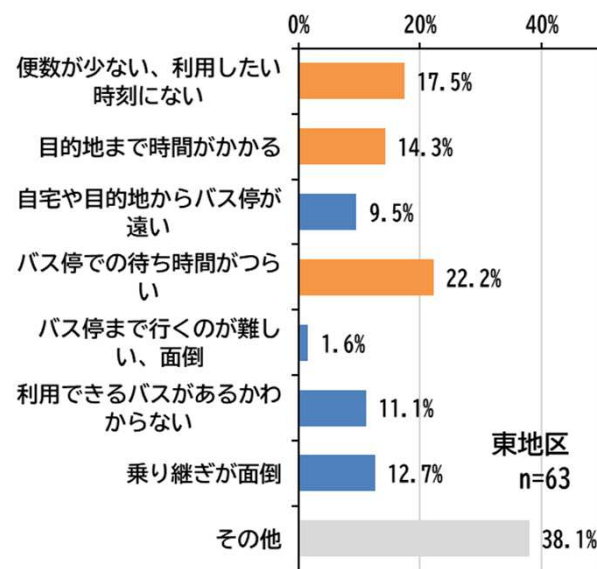
現状の公共交通への困りごと

■公共交通空白地域の状況

公共交通空白地域の面積	公共交通空白地域に居住する人口
0.37km ²	2,760人



■路線バスを利用しない理由



■既存公共交通に感じている不便なこと（自治会アンケート結果）

<路線バスに感じている不便さ>

- ・自宅からバス停が徒歩30分ほどかかる。
- ・夏は暑く、冬は寒くてバス停は待ち時間が長い。
- ・バスの乗り降りに不安。
- ・バスの便数が少なく感じる。特に通勤時間帯に感じる。
- ・時刻表にズレがある。もしかすると雨天時や事故があった時かも。

<タクシーに感じている不便さ>

- ・タクシー料金が安い。
- ・イベントや野球の試合、催し物がある時は、タクシーの予約が出来ない。
- ・タクシーの台数が少ない感じがする。

